紀伊國名所圖會 三編 六之巻

高野

北呂4
1.899
17冊

紀伊國名所圖會三編巻之六

高野山之部下目録

小田原谷
坊舍百十八箇院
轆轤峠
往生院谷
坊舍五十七箇院
蓮華谷
坊舍六十二箇院
五大尊堂
奥院
一の橋 鉄字ゝ之 東谷 摩尼街道 曽我兄弟碑 犬の墓
青巖寺
彌勒堂
圓山辨財天祠
阿彌陀堂
大師堂
萱堂
北日大師
千本槇
阿字觀堂
別所圓通寺
丈六堂
法明上人碑
天神坂 天神祠 熊谷蓮生碑 敦盛碑

玉川 爪影地蔵
愛宕権現社
蛇柳 蘇摩石 世南碑
門脇宰相旧跡
逢坂 吉野権現祠 舟摩力石
熊野権現祠
闕院宮御宝塔
雙輪塔 紙信忠 信碑
浅野内匠頭碑 織田信長公碑 太閤秀吉碑
御供所
斷食所
桃園帝御宝塔
閑院宮御宝塔
燈籠堂 持経上人碑 御所芝 覚智墓 應其上人碑
丹生高野両大明神社
万年草

行基井碑 佛供杭
愛宕権現社 數取地蔵尊
立合藤
厳島明神祠
天野明神祠
覺鐵堂 頬載地蔵
一番石塔
法然上人碑
本阿彌七石塔
護摩堂 御室御庵室 静蓮法師庵室跡
護摩炉
慈尊院明神祠
参篭所 水向所 明遍杉
御廟橋 弥勒石 中御門帝御宝塔
笠地蔵尊
木食所
盥漱盤 藤太碑 声明地蔵尊
芭蕉墓
二番石塔 足助地蔵
中の橋 棺懸櫻 熱田祠
塊亭碑
明智碑
多田満仲公碑 腰掛石
江戸失火燔死碑
流汗地蔵 茶井 清吉祠 八幡祠 天照大神祠 春日祠
朝鮮役士碑 天の川 七夕祠
石清水 清水観音
六孫王經基碑
姑射山
求聞持堂 霊元帝御宝塔 櫻町帝御宝塔
盲大師
骨堂 岡加井 看経所
霊鳥
御廟
親鸞上人碑
一切経藏
佛法僧鳥

小田原谷

本中院谷及南谷の東よりつゞき往還の左右より亘る呂東別所より壇上の東二丁許ふ當ろ城州小田原教快上人の住せし地なりとつく号くるに

長明発集

小田原よりつゝ寺ふ教快と云人ありけり後に高野ふ住けるが

新しき水瓶の様なれども思ふ様ならぬを儲けく殊ふ執ひとひ

けるを様ふ打捨て奥院へ参ふけり彼所にて念誦して一心に

信仰しけるさきの水瓶をおりひ出してけるふ并べ

つゝ物と人や取むと不審しく心一向に非ざりけるを由ふ

くゞ覚えて返やおきとけるまゝの石ゞみの上に並べ

らるゝを捨ゝけり 教快上人の弥勒堂の条下わ参ゝ

十八景 満山並麓 雲石堂寂本

龍卧虎蹲東水長二千余寺接門牆磬鐘不絶暗香遠八

百歳華一佛場

左側

○青巖寺 本尊 東照神君尊像

五百頭ノ木
真然堂
廣隆

青巖寺
護摩堂
南蔵院門

護摩堂　五百頭峰（持後の山といふ覚鏡上人求聞持修行の日五百羅漢出現ありしかの山）後僧正真然

朝（後山の南面にあり）覚鏡池（門の外面にあり上人曾て清冷潔白なりし）　関伽井（真然僧正の穿らしめ呼ふ）

一切経蔵（浪花浄珠居士と云人の建立）

文禄雑記　豊太閤文禄三年三月五日新作十番の内高野参詣の

詫一軸小金印を押し賜ふ青巌寺に於て御能あり

ごとく仰ぎ山徒拝謝し云く大師の授と云て

山中昔より笛鼓等の鳴物を堅く禁ずるなり殿下の

御恵いかゝ御事なれども大師の冥鑑なり難しと再三

辞し申すれども太閤我遊興の為なりんかとあるを大衆

の勞を慰めんと大師を供養とゝふ均しくゝ〜さまゝ憚べう

らずと既に御能ありける時晴れる空俄に暴るゝて

雷電影〜鳴裏き今も頭上に落ぬべき気色ありきべ

当後の諸大名いかゝもさなり桟敷の群集まゝ皆色

を失ひ騒ぎあへり太閤も千手院谷の山道を單騎にて

兵庫まで遂ぬきたりと此度一向寺法真隆の志あまたゝび

禁制ありしと是なりのをびなるゝ許さしべきとあるひ

しかるに相違しゝ少しの論もなくかき目をうせきけ

るもて殊勝なる在世の徳行なりひやまゝ返すゝと

云云

○自證院　○高福院　○東光院

○真如院　○尭王院　○高徳院　○覚證院　○和光院

○高室院　檀契　北條家　○遍照院　○圓蔵院

○極楽院　報恩院蔵護摩釜銘　○中生院　○報恩院　檀契　松平雲州侯

明徳四年癸酉十月日　權律師仙尊行年六十歳

当山院々護摩壇を構へ（修法怠る事なし故ふかく傳へる護摩釜偶当院に入る銘あるを載す）

○胎蔵院　○観智院　○林性院　○壽福院

右側

○東善院　檀契　有栖川宮
○總眼院　○帝釋院
○圓増院　○眞城院
○蓮花院　○地福院
○密嚴院　○大善院
○福壽院　○威光院
○愛箭院　○普賢院
○養壽院　檀契　鳥居侯　本多侯
○玉藏院　檀契　松平周防侯　松平丹波侯　松平紀伊侯
○淨眞院　檀契　松平山城侯　松平伊賀侯
○阿弥陀院　檀契　稲垣信濃侯　稲垣若狭侯　大久保佐渡侯
○花折院
○愛染院
○修覺院
○蓮德院
○本乘院
○乘福院
○金藏院
○萬生院
○中性院　檀契　奥平大膳侯　松平下總侯
○光壽院
○最善院
○花嚴院
○淨雲院
○天王院
○林德院

佐々木高綱画像

泰雲院所蔵

廣隆縮寫

或書云

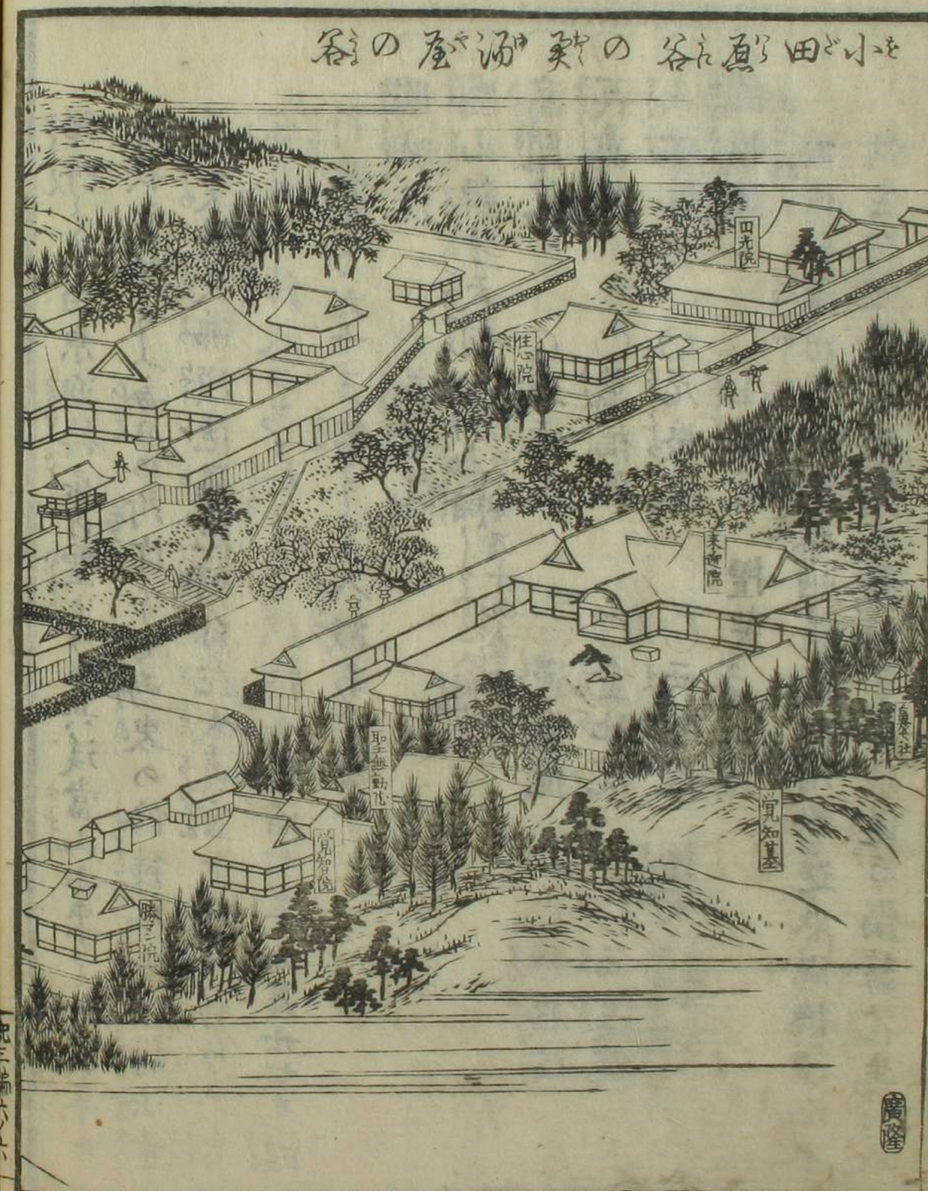
京極黄門の曾孫大納言為世卿出家して明秋上人と
ゆゑ密門に帰依し給ひ嘉暦四年に登嶺あり花折
院に入て誦経の外他事なくおこしまし或時櫻の花
を折て佛前に手向て
維ゝ[illegible]折ゝ[illegible]花三世の佛もゆるせ我
句中に為世花折の四字を隠せり後中納言為綱卿此
歌を感じ給ひ
折て花ゆゑ〳〵[illegible]の[illegible]も世をも[illegible]
と添じ給ひ

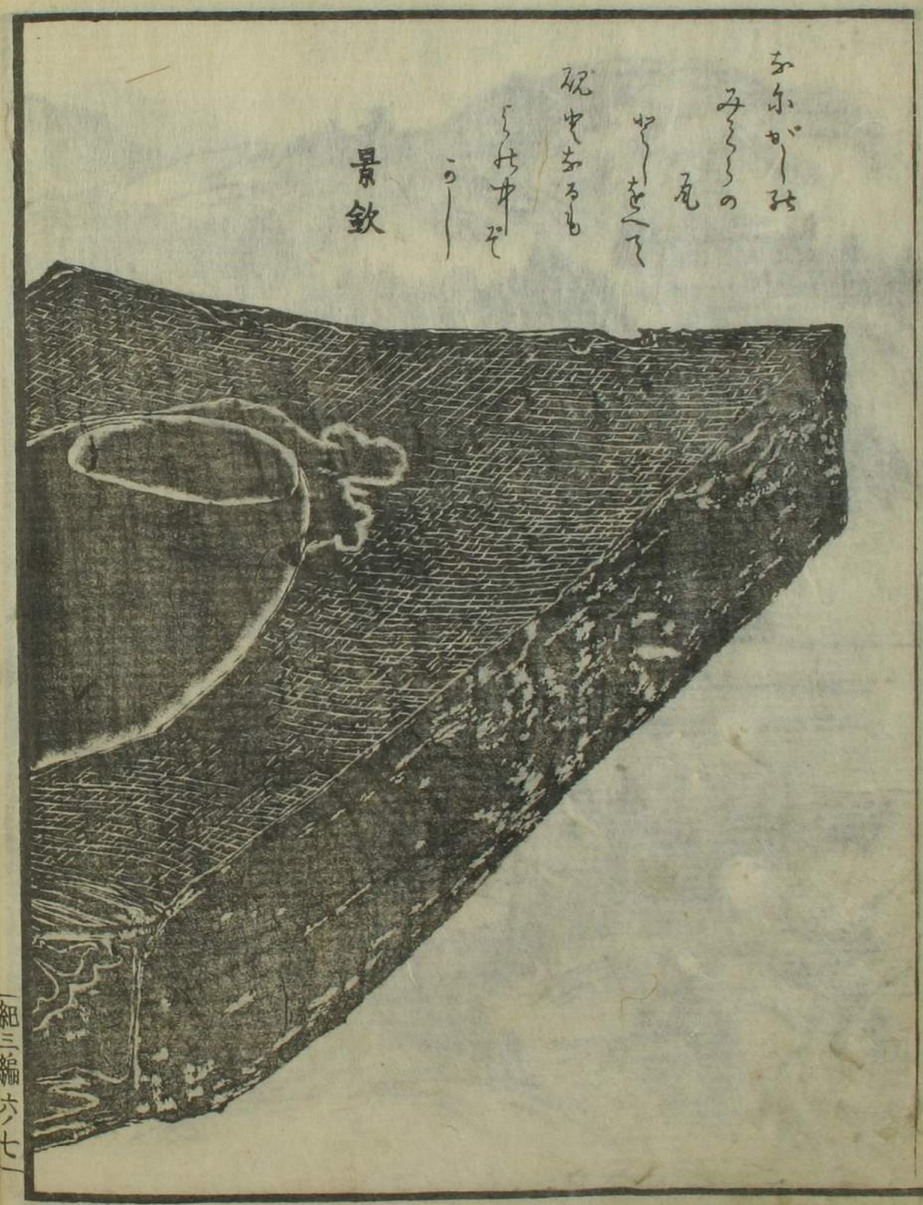
○養學院　○宝善院　○真珠院　○南城院
○釋迦院　○妙法院　○清浄院　○宝珠院
○安楽院
○泰雲院　檀契　松平越中侯　戸田淡路侯　戸田采女侯
京極加賀侯　京極周防侯　米津伊勢侯

○法雲院　○龍泉院　○龍池院
○清涼院　檀契 井伊侯　○巴陵院　檀契 相馬侯 高木侯
○安養院　檀契 毛利侯
長禄寛正記 高倉殿御不例の事あり是ふ〳〵御祈念のゝ為ふ宮〳〵社〳〵
小御立願あり又貴僧高僧ふ仰て大法秘法を修せらる
云々遂ふ御他界あ〳〵ぬ日野殿の御沙汰として高野山安
養院ふ仰て御骨を奥院ふ納めやさる 摘要
○光明院　○宝城院　○常喜院　○和合院
□彌勒堂 一名浄土院 本尊弥勒菩薩　○鐘堂 康正二年の古鐘なり
此堂ハ教快上人の草創なり上人曾て浄土の青蓮花を感
得て故ふ浄土院の號あり終ふ轉じて谷の名となる教
快上人ハ京師の人なり幼時出家して南都興福寺ふ住む
壮年寺を辞して山城國久世郡小田原ふ遁て故ふ

俗呼て小田原迎接房の聖と云ふ其後當山ふ來て廿余年の
春秋を送りて毎日の所作として両界の修練弥陀の行法兼
て受持大佛頂陀羅尼阿弥陀大真言を念誦せらる自
余の行法人の為ふ勤あり終ふ寛治七年五月廿七日德
行積て九十三齢にて入滅ありとぞ
○圓城院　○善昌院
□圓山辯才天祠 大師勧請 祠内ふ木像の天女及十五童子を安
○高聞院　○理德院　○蓮蔵院　○林蔵院
○長壽院　○萬福院　○金地院　○西蓮院
○正雲院　○光聚院　○西明院　檀契 松浦侯 大村侯 五嶌侯
○圓蔵院　○上蔵院　檀契 久留島侯
春川詩草 雨中遊上蔵院
脩竹林深出磬聲來梁烟景雨中清無邊春滿楠檀海一不
住雲添兜率城風拂画簷松子落泉送石榻蘚花生詩成

四社
東光院


小田原谷の湯殿の谷
四光院
住心院
覚知堂



おかがしら
みくりの
瓦
やしをへて
硯をなるも
うれしかぞ
こゝろ

景欽

唐青龍寺瓦硯
其質鐵のごとし

金剛三昧院藏

廣隆縮寫

遊客依欄処時聽黄鶯喚晩晴

吾河野氏ハ新智ニ兵藤ニモ名ヲ文師ノ名ヲカヽ[illegible]
縁起ニモ當ル世因縁ニ[illegible]

あしびきの山の秋の雲や奥の院　伊豫国　南

○圓満院　○妙夢院　○閑松院　○真如院
○浄土院　○等持院　○圓光院　○住心院
○修善院　○見正院　○正受院
○金剛三昧院

応和二年　震筆の所役奉仕の院使として登山のとき
金剛三昧院の落頂堂の前の陽より[illegible]

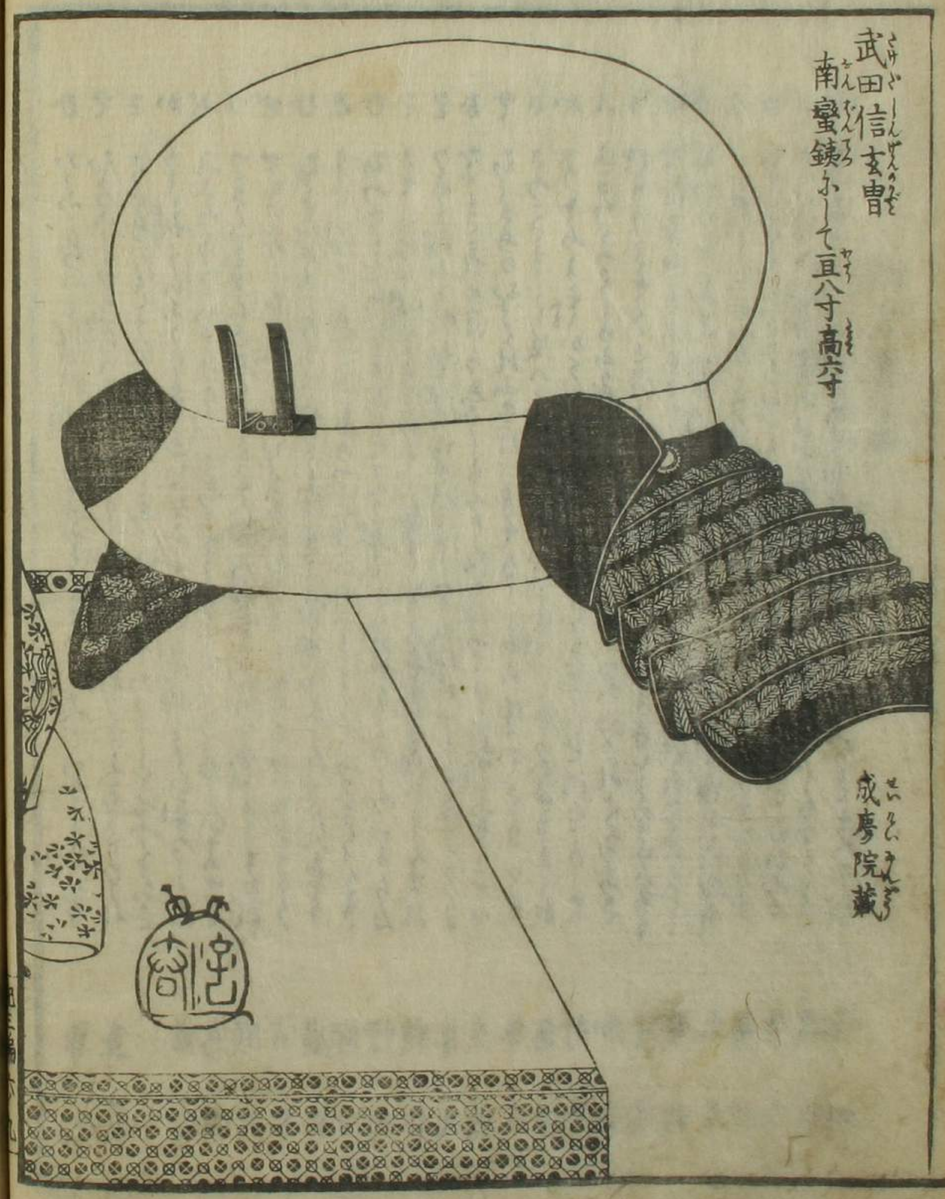
ふるなさうのとまとしけを仏ちさとう我ち迷てふ　大納言為兼

為氏卿家　[illegible]釈迦仏全身舎利の[illegible]
[illegible]
[illegible]

云ようふさふ[illegible]山めなる門をたづ祈らんこゝろ　放鵬子

直義朝臣奉納短冊寄　百二十枚の内ことの
二十四枚の歌なり

おなふとぐのこゝろにけ仏ものこゝろ　尊氏
むろのこゝろ[illegible]　直義
さゝぐめなきこゝろに世の中とたゝめ[illegible]
[illegible]
ふゝろゝさわけの[illegible]
つきふゝろぐんのみちをこゝろ[illegible]
せをとやゝ中心ゝもうぐきはもゝ[illegible]
もまんあゝこゝろれゝのこゝろ[illegible]
しゝ[illegible]のつゝるゝぐゐのつゝとぐふゝやゝ[illegible]
むつのこゝろぐゝもまゝてゝゐる[illegible]
さゝもはゝ仏のこゝゝこゝゝ[illegible]
つゝやゝふゝふゝれゝゐゝけのゐゝゐゝ仏れゝなぐゝゝゐゝ
なぐゝさ夜の月ゝ[illegible]
もゝゝゝのゝゝれ山のほゝぎすゝ[illegible]
さゝつゝさゝぐゝ後ハとゝもゝ[illegible]
ゝゝゝめゝゝゝかゝれゝ[illegible]
ふゝさゝゝふゝゝゝのゐぜいまゝでゝゝゐいをゝゝゐゝゝゝ
けゝゝゝ



同肖像

武田逍遥軒信綱の筆といふ當院の什宝る事万宝全書ふも粗みえり印文ふ信春とあるを信綱の一名ふや

跋文

夫宝積経要品者示供養如来之真理著空寂自性之本
元寔是修行太乗之真路證得菩提之通門也是以新書
一軸奉納高野山金剛三昧院以為常住持経矣是中伽
葉會分初則余自書之其次夢窓國師書之優婆離會分
則征夷大将軍書之抑先年因或人感霊夢以南無釋迦
佛全身舎利之數字各冠和歌之首句以詠之既而成軸
矣為令彼詠歌之衆結良縁寫真文於其紙背者也伏冀
三十一字之綺語契當三藐菩提二十餘輩之歌人成就
二世願樂兼施餘薫普及一切敬白

康永三年十月　日　　從三位左衛督兼相摸守源朝臣直義

作者二十六人短冊百枚

○光明院御製六枚　○源尊氏公十三枚　○源直義卿十二枚
○高階駿河守重茂二枚○多々羅合戦之時奉対将軍弓和漢両朝之例人歟
○陸奥守顕氏三枚○細川八郎四郎頼貞男
○長井大膳大夫廣秀五枚○大江高廣男
○紀行春五枚○法名祥最摧大納言為家卿家人
○道恵五枚○俗名左馬權頭源泰直嘉吉元年赤松害之
○尓爲五枚○不詳
○高階高範二枚○不詳○傳
○栗飯原下總守清胤一枚○栗飯原氏光一名欽

紀三編六十

○權中納言為明七枚○二條家為世卿孫
○少納言藤原有範五枚○南家儒三位藤範男
○高階武蔵守師直一枚○法名道常
○讃岐守頼春三枚○細川八郎太郎公頼男観應三年閏二月二十四日於七條川原討死
○權中納言為秀五枚○冷泉為相卿男
○阿波守和氏五枚○管領細川公頼男
○渋河丹波守貞頼三枚○二郎四郎源義春男直義男
○實性五枚○実性寺法印也法印長舜男
○兼好五枚○治部少輔兼顕男
○静辨二枚○按宗使法印光成男
○光政一枚○秋山太郎源光定男
○季行一枚○傳不詳
○行珍五枚○俗名二階堂信濃守藤原行朝
○紀行春五枚○法名祥最摧大納言為家卿家人
○道恵五枚○俗名左馬權頭源泰直嘉吉元年赤松害之
○尓爲五枚○不詳
○蓮智三枚○俗名宇津宮遠江守貞泰
○頓阿五枚○俗名泰秀法印仁誉男
○慶運五枚○法印静弁男
以上

轆轤峠
高野山より熊野
一の往還
此峠より
壇場の諸
伽藍寺院
ともに眼下
みな女人堂
巡りをもれば
あのうろを
出るなり

三寸美
化粧
揉抜
峠
をくもとち
くびさし
のべく
泊り
壇場

○日輪院　○東光院　○勝鬘院　○覚智院
○聖無動院　○来迎院　檀契　伊東侯　○勢観院
○善壽院　○醫王院　○宝蔵院　○常住院
○法門院　○徳城院　○安楽院
○西門院　檀契　紀府三浦奏　○教学院　○威乗院
○成慶院　檀契　内藤山城侯　秋月　久世　侯
押沢伊豆侯　松平信濃侯
○最乗院　○仁王院　○昌蔵院
□轆轤峠　小田原谷の門陽屋谷の奥にあり
山虞と大瀧口とゝ　熊野街道　女人堂　峠の北にあり

往生院谷

小田原谷のあとつきて生還の左右に豆腐壇上の系
丘丁浮ふあるまつ而往生院とゝ寺あり

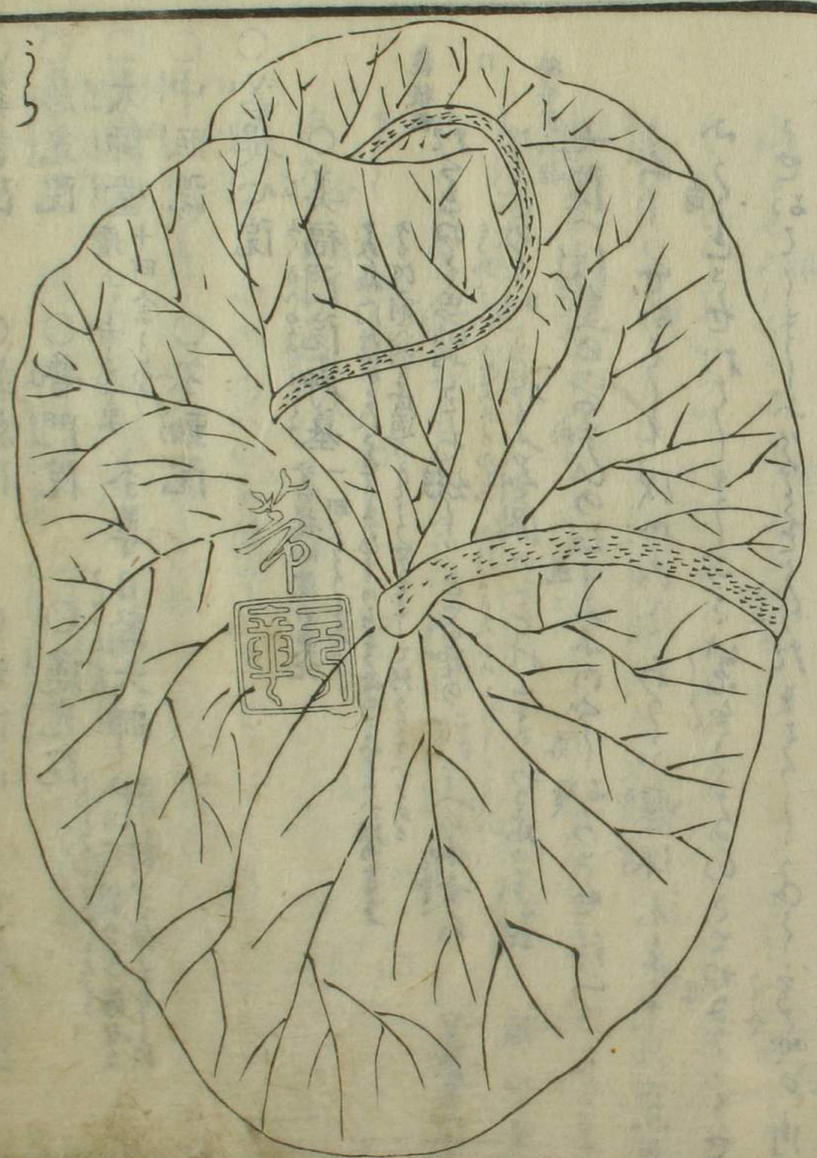
左側

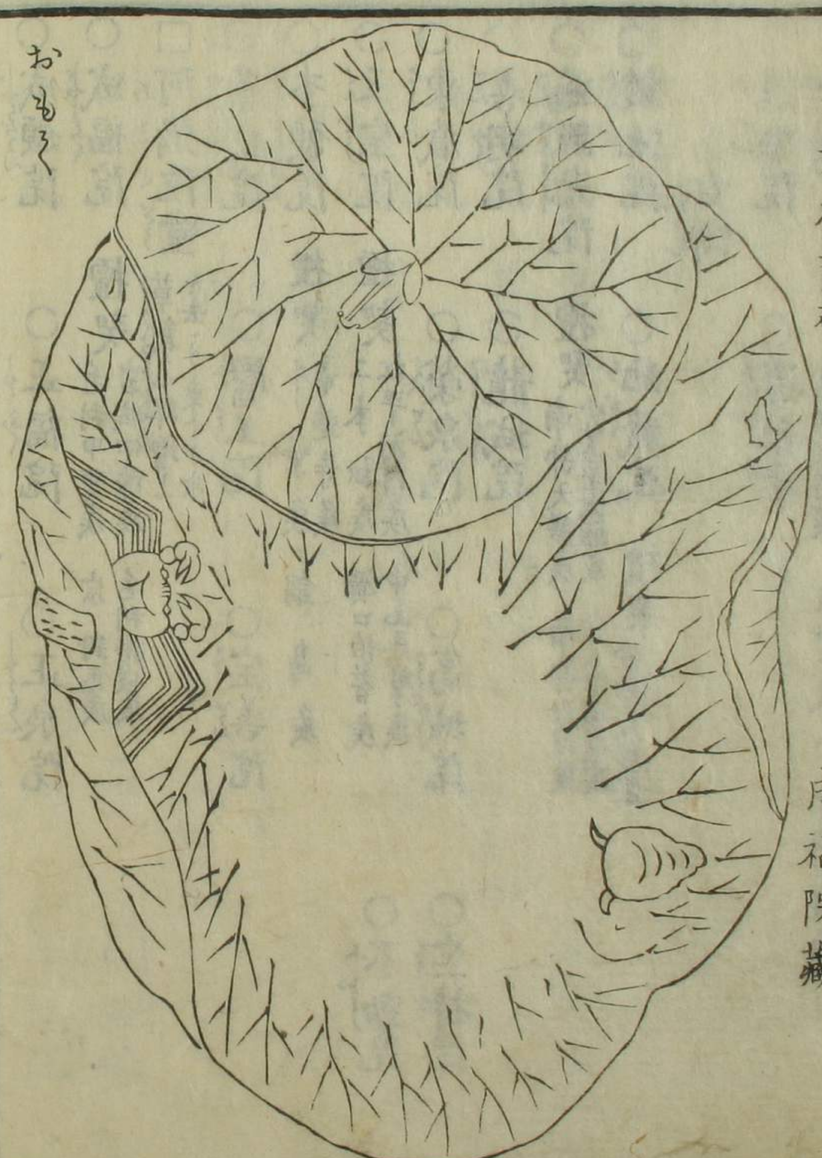
○吉祥院　○林泉院　○智身院　○相應院
○西光院　○威福院　○安住院　○正仙院

○成願院　○正福院　○正泉院
○成福院　檀契　毛利甲斐侯　宗　對馬侯　諸城伊豫侯　毛利讃岐侯
□阿彌陀堂　草創不詳壇上と去る東十丁余
○藥師院　○醫王院　○宝善院
○本願院　檀契　千葉侯　竜造寺侯　鍋島侯
○三宝院　檀契　二本松侯　松平河内侯　溝口伯耆侯　中山志摩侯
○東蔵院　○榮泉院　○高城院　○不動院
○善明院　○龍城院　○宝持院
○遍照光院　檀契　南部大膳侯　南部丹波侯　小笠原大膳侯　小笠原備後侯
○鍵池院　○地蔵院　檀契　分部大溝侯

右側

○慈眼院　○蓮花寺
○持明院　檀契　京極長門侯　京極壹岐侯　土屋相模侯　米倉丹後侯　甲州武田家　江加浅井侯





宋元章荷葉硯　大さ圓のおもて

成福院藏

○真言院　○荘厳院　○光徳院　○來福院
○慈光院　○普門院　○蓮光院
□大師堂　壇上と去ること東十町余りあり　本尊日輪大師　入日輪観の写し像なり　草創つまびらかなし
○中照院　○不動院
○菩提心院
○美福門院御墓　菩提心院の東北一町ばかりあり
美福門院かくれさせ給ひしのち　ひさしく思ひやりたてまつりて　皇太后奉殯儀
前大納言成通のうたとて　源仲業
続後撰
わすれぬる人の御なごりの
門
なかぬるかねのこゑ　かりの宮原のそでにもうつる
続世継物語
女院いまは皇のやまひのもしうふかくなりぬるさま中略
つゆのいのちとあらそひ　應保元年十月廿三日
ふかくまさせたまひ　結願のあくるひ　居
せかれたまふ　義
ふたりしまひ　ふたりとだ　たまふ　御

地藏院藏

大師行狀記中俗典鑽仰の條

繪　筆者不詳

詞　近衛道嗣公書

備後守時通
美福門院の
御遺骨を
首ふりけ〳〵
高野山へ
上り給ふ
債世継物語
廣隆

○福壽院

□萱堂　壇上と考へたるか

本堂　本尊觀世音　西天竺より伝来　宝塔　鉦鼓　御影堂　大師の像　大日如来　親王筆

蓮池　霊池　観音の閼伽井　四所明神社　楼門　鐘　梵鐘

總門　麟鳳亀竜ハ左甚五郎作ト云

○近衛殿墓所　境内ニ

新今昔物語

今いまゝ覚心と云念佛者あり紀伊國由良の湊の漁者ども〻が發心ゝ法灯國師ふたゝび寢食とゝもにつゝ
へゝる物ゆゑの手ゝうきん字ゆや山ゆ紅ゐてかゝるあるゝ庵と
むとぶゝ
引よせゝ居ぶゝもすず壹の尾とくまびゝのみゆふりゝと
又絶とゝりかゝゝゝ尾よ引ひすまゝゝと國師都ゝゝ
ゝゝひゝ
おのづゝゝんのすむう死れとむう壹のわ紫のあり明の月

ゝゝゝ

萱堂
日向寺流

萱堂
本堂
宝蔵

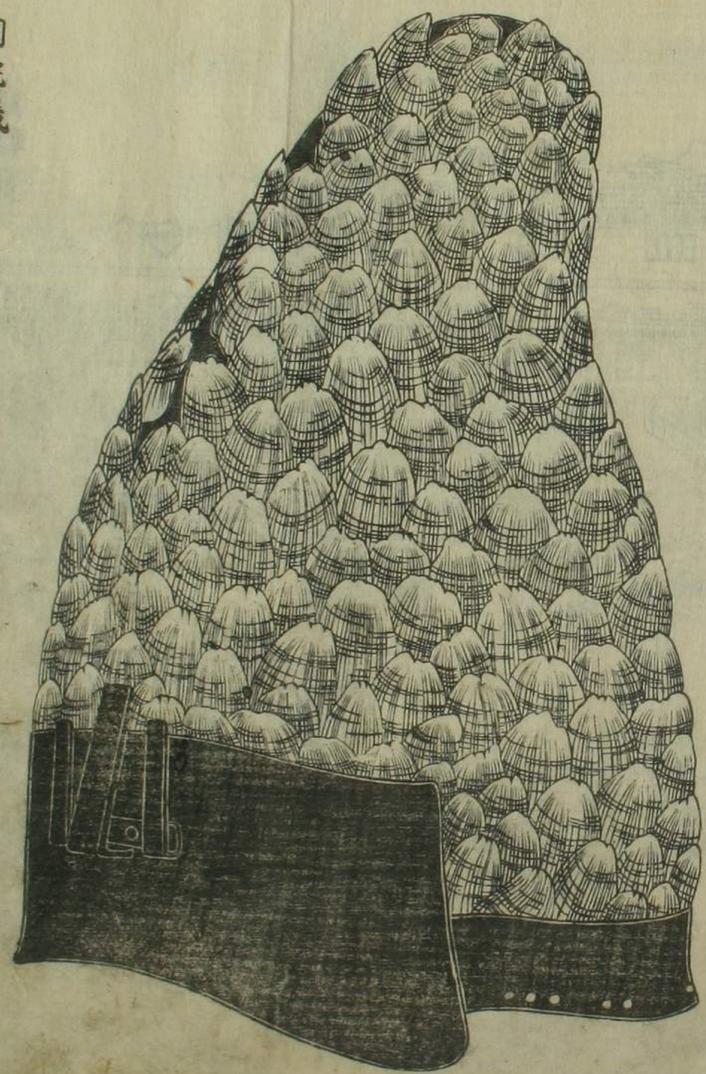
赤松圓心木像

赤松院所藏

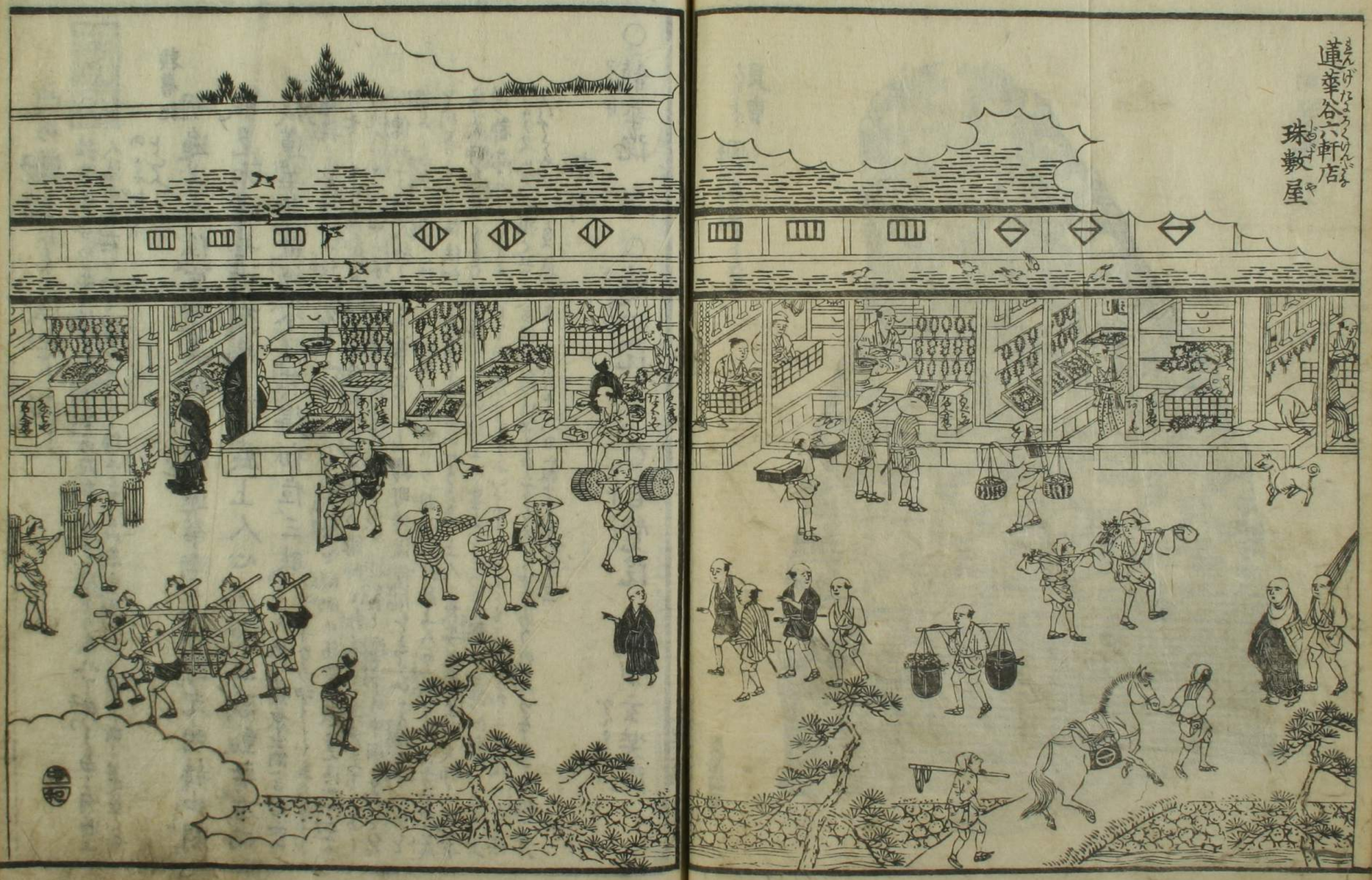
廣隆縮寫

貝冑　圓心着用ととい

同院藏



廣隆縮寫


蓮華谷六軒店
珠數屋

所の圓盆なり縁起ふ委〜

蓮華谷　往生院谷のあま積て往生の左右に堅て壇上の赤八丁許に面る明遍上人法ふ自在をなく他と変して浄土とせ〜ふ忽宝蓮花と生ど故ま蓮華谷の名起る

頼夢記

明遍上人住二定中一其夜所観蓮華漸〻相舒光明赫如開眼見大蓮華中有無盡荘厳上人心魂廓然感動暫有而後蓮華漸歛復本従其得初位三昧上人姓い藤原少納言信西の季子なり幼〜〜より学問し法相維摩会の講師を勤修し其声天下に響く壇上の中間に蘆を結ひ住し時人称して聖人と号す一時伊勢の祖師法然上人に謁し西方の要義を問答を覚海法印も又常ふ崇せりとや上人一夜安養の土と大師に祈求を大師急ぎ〜〜に影現し浄土の要文をさぐり藕糸の僧伽梨を〜〜と編次す今ふ〜〜に品〜〜に蓮花三昧院の寺法〜〜〜

[illegible]

○中性院　○浄心院　○松壽院

□阿字観堂　檀上を去ること十九丁ばかりあり　本尊阿弥陀如来

○清德院　○微雲院　○元興院

○大圓院　檀契　立花家

右側

○萬蔵院　○法眼院　○上生院　○壽命院

○明王院　檀契　森川内膳殿　永井飛弾殿　松平和泉殿

○龍生院　檀契　石川日向殿　堀尾家

擁護山房鎮一泉神竜蟠屈定多年兼知芳契慈尊曉　釋立詮

後會期遥九五天

○蓮專院　○阿咩院　○毘沙門院　○増福院

○來藏院

[illegible]

○恵光院　檀契　島津侯　松平隠岐侯

○妙泉院　○梅松院　○泉德院　○養壽院

○光明院　檀契　阿波侯　紀州久野大夫　阿州稲田氏

○持宝院　○佛心殿院

薄蔭紀行

持宝院ふまでぐ紙谷蓮生法師の木像をうるうの集谷十種小袖ものこりよりも殊勝なり此院を智識院といひ此蓮生寓居して紙ひとを命〳〵ものこりて世の人紙谷寺と

いとなつかの法師ある時よめる歌

紙谷の紙ハ中ゝまでひとやらう中ゝじん弥陀のこうひ

いとへの燈ふまでる紙ハ紙のいろおもとりゝざりゝ

通仏のちかゝとなりざりゝるとおもひやゝ

橘易興

袖ふれし天冊信実が浄瓶ふ紙衣の歌を挙て是ハ熊谷入道蓮生の歌なり
も此山に於て鍛錬に往りとき…なりけり紙衣ハ今いふ紙ふあらず白紙をつぎて
縫て二月堂の行法などの着けり
ところの紙衣ごときなりとあり

○上珠院　檀契　牧野侯
○愛染王院　○十輪院
○持宝院
○常夢院　檀契　水野一族
○金性院
○五大院

□丈六堂　壇上を去ること十七町余東
仁平元年　鳥羽法皇の御願堂となせし也
本尊丈六弥陀　坐像なり法眼丹心の製するところ

□五大尊堂　丈六堂をさる事南五丁ばかりにあり
本尊不動明王　大威徳　降三世
軍荼利　金剛夜叉

□千本槙　五大尊の堂をさる事十町余　深林中にあり
此樹一根にして千株にわかれ出る事一瓶に数本挟めるに似たり
鼻祖大師虚空蔵求聞持の法を修行したまへる時瓶窟
とせし佗此地にさし置きしより霊徳の所為なる威じその世に

清浄心院谷

亦及滝口入乃
出京のち来
藏院ふ住居
ヒ〜〜ろ雅司
横笛の亡魂入乃
を慕ひ鶯と
化し此寺ろ
来る愁腸を
囀て
晩ふ寺
内の井
中にお
ちく
死ろ
因く
世人

あるまでかくれなく繁茂するにつき山中すべて柾の一株なし
ある事なく樹葉茂りしかも世人是を高野柾と称するなん
帰路のならざるまてまで本柾をえらひゆして
みやげの一同かりのさくらより柾の山ぞなりけりぬりしき

霊巌寺 無染

○本王院

春川詩草 三月二日集本王院

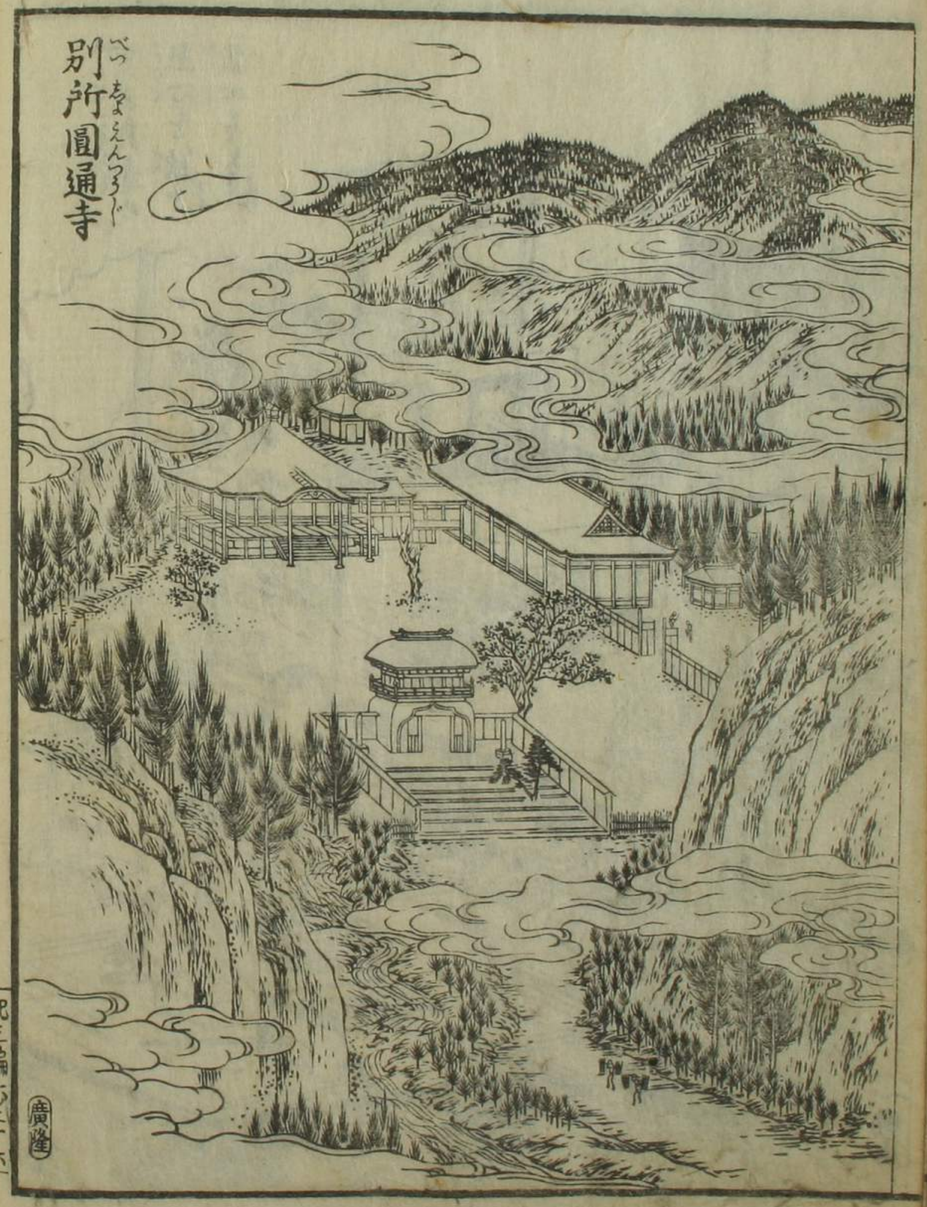
千樹桃花照席丘人先佳節醉香樓林間飲澗過玄鹿塔上喚晴啼錦鳩松籟更和仙唄落鐘聲時出白雲流明朝縱赴蘭亭會高興爭如蓮社幽

○誓願院

續今昔物語

今はむかし京三條わたりに荒見命と云ふ男ありけりかたちいみじく美しくくせん
さうらやありけん妻のすしむすかかく絶えてさおりけんはあいかなきさともしく
我をもんのとうこすくさせさまへさしびれいとまさまなりしもみどりひかり男もうちあくや
あのひかんひをさかけのるをしらく年月をやりぬあまるくさまるつるまゆつる女の
下女をおくちかたをすぐるを此男くるくまりかとえつけけりとらしも人目あるうしぶ
その女をとりよせくさしころしてきやもどもさかとりすり血のつきたるをりてゆりく妻ま
おくりたまでかくちりよりなる夜うちらきそる女あくが髪もいとめてさりけんまなとかりふ
まりてへ来りすまいざりしとてくのしてはりを男見てかくりひて女とらつきのふ
かくまでなさけしらぬりのりかおもひへくるとこころそつやぐてみなんしろく

萱五郎妻の悪心を變じ善心となる



別所圓通寺

○萬福院　◎智性院　檀契　稲葉侯

○蓮華三昧院　檀契　森川内膳侯　森川下総侯　三浦備後侯　淡州和田氏

○明泉院　檀契　長州宍戸氏　○常住光院

○東根院　○智門院　○瑞雲院　○正壽院

○戒定院　○延命院　○見樹院　○雲聖院

○理趣院　○梅林院　○尊勝院　○丹生院

○岩本院

十八景　夜々月明幽砌中　明月幽砌中普賢鏡智踐高風世移人易山猶舊唫　雲石堂叔本

歎寧堪物外朗

□別所圓通寺（往生院谷の南八町許深林中にあり 霊岳山律蔵院と号ふ深夢師の草創）

虚空蔵菩薩（二尊とも深夢師の草創）

本尊釋迦如來（世ふ火焼の地蔵尊と号す寺記に云なり）

地蔵尊（終身所帰の尊像）

昔智泉大德、くゞめ〳〵去の処ふ仏を抑去の地に萬樹翠〳〵と凝〳〵一鳥鳴ど清溪珠を吐く流雲幕を垂る定侶禪客の宜く棲遅すべきところ幽地中の幽地とつべし大德奄化のち衡荒蕪せふ中頃俊乗坊重源師あり東遍して所謂重源逐電〳〵高野ふありとふ此処なりべし長明が発心集に齋所推助成清が子親〳〵かくともいそぐ道世〳〵と重源上人ありがくるくもりがくる野よ新別所と〳〵所あり我往生の処なり不断念仏を唱へ一遍ふ往生極楽と称ぶべき外他の営なし早く彼衆ふ連て念仏の功つもるべきところ野へ帰り云ふ

後山口重政と云ふ者あり少〳〵さ髪〳〵深夢と云ふ本院の荒廃せるを見て大ふ悲願を発し堂宇を〳〵維新〳〵

神君の厳像おがび歴代の尊牌を安置し冥福を祈誓〳〵そまつる且中蔵院主良永俊賢師を請〳〵中興す俊師し〳〵律家の法幢を建〳〵淵博なるのち密門師まゝ事教を達す曾〳〵藝乃ち福王寺主法忍師〳〵〳〳〳

と無量壽如來との両軀の如來の心中の神咒なり一遍誦すれば百億無量の法門を誦し畢るよりも最勝なり光明真言經に說たまく光明持念の行者い命終の時に臨て彌陀如來自荷負して極樂へ引導したまふ又死者の為ふとの真言一遍を誦せば必無量壽如來死者の為に手を授けて極樂淨土へ引導したまふ

猶十遍廿遍あるひい千遍一万遍ふるてい切德の大きならざるべし諸經に云ふ道綽禪師安樂集に此真言を以て土砂を加持するべし一百八遍して屍陀林の中にて亡者の死骸の上に散じ或いは墓の上塔の上に散じ隅ごとに皆是を散ずれば土砂に遇まば光明の全身なりと知て照觸する所い利益難思して功德実に空しかるべからず真言一家にい院々累代先師の追福い更なり信心の道俗男女十方の檀越過去の亡魂追資の為に土砂加持の法莚を營んすを願ふ時い道場を嚴飾し廿五人の衆僧を請じて一日六座勤行をなしを光明真言土砂加持と云

奥院

蓮華谷の東渓林をもつて興院の地とす千載の老杉百丈の古檜鬱蒼として隙を
続後撰　法仏覚基
侍ひ終ふ日影を窺ふ只清泉瀝々天風聴々として幽邃寂寞塵寰と隔つるの弥遐
入道奥政臣
続門葉
わけ来つるみてをたのむ山の奥に
おくのゆへ侍るるをいかにまきあるこころもなりし
雪玉集
ゆくすゑや天ぢをなるあもとで　杜國
ちらちらとうつるこゑ　純のうえ
無の　雪中菴
花とうつる　野坡
○一の橋　又る伏橋と云ふ邸宅まで十八丁なり
し橋より御廟ふ多るまで道の左右ふ公家武家とくぐゐ浮屠氏
る更なり海内の渚名家農商の男女力士俳伶の
碑碣累々〻〻〻　幾千万とふ数を尽ず各院ごとを守護
〻〻香華を捧て菩提と吊ふる白〻〻〻　就中一番石塔の

如き高大眼を驚すあり朝鮮役士の碑ハ武夫を慷慨
せしむるあり木阿弥の七石塔親鸞上人の碑の如き制作の奇
なるあり他列侯の俎先ハ碑大なるハ衆碑を魁出して著く
小ふるハ殿宇を造て五乗を裝ひ輪奐たり或ハ花表を建
て或ハ石廊を廻らすを趣あるものといへども皆高祖大師
共ふ三會の暁を期せしめ深き因縁ある事なるを大畧ハ
惣圖に載せり今古碑名區且神祠佛堂の類ハ亦万が一を
左に記す

性霊集高野結縁文

沙門遍照金剛敬白此道場者普以五類諸天及地水火
風空五大諸神並此朝開闢以来皇帝皇后等尊霊一切
天神地祇爲檀主伏乞一切冥霊晝夜擁護助果此願
偉哉大聖兆平降神爰自髫齔直也人乗搓浮海越境
問津甘露弘法大日施仁三昇示兆五筆留真二朝傾首

萬乗禮慶倍郷月夜高野花春初證三地後遺全身入金
剛定昇摩尼林民受其賜奈何大鈞
一の塔より市屋の道を東へ行て
高野の大名山の麓の大名の墓あり　光廣
雲理

○鉄字　法例よりあり又衆の頭の墓なり

○東谷　奥院山入口南の方に一基の門あり内に二十四の草屋並び行基井の末徒三昧聖
墓所を守る中ノ坊東ノ坊角ノ坊なるあり所の公郷諸侯の石碑諸寺院山内の
草鞋とらつれも此あり所由あり半しくなり

○癩病庵　蓮華谷を去る　本尊阿弥陀如来　大師の為に造る堂を拝し
法國の後宇喜の為に丁金あり
除病　如来もまた悲願を捨てず　朝懺暮悔
現に今病根を断ち平愈せるもの有ること方便なり爾のミなりと血脈を子孫
に徳ずくなむ　大師加持力の法験なるかぐ信ずべし

○摩尼街道　東谷より通ず

○曽我兄弟碑二基　左側にあり鬼王の建る所と又鬼王の碑あり

○犬の墓　日上元應二年の銘あり

○法明上人碑　日上上人は法昌僧都の弟子なり解を得る大徳なり河内駿通大会佛宗の中興なり年号真福院の
傳記に

○天神坂　此坂の河あるを天神の河と名とす
御前の坂なり

○天神社　右側にあり天神は大師の
化身なるとて祭るとつく

○熊谷蓮生碑　左側にあり背に貞和二年
丹治忠直立之と彫る

名とげくもの　撰を蓮となりふくり　一笛

○平敦盛碑　蓮生の碑は側にあり蓮生
つがとなりと

そのかくもまるかぶ　塚の苔　成壹

○玉川　左にあり所謂六の玉川の一つ毒水なり
溝川なり寛文十六年碑を立て左の歌を刻す
風雅集
あとたにもくみやしつむ旅人の手にむすぶ玉川の水　雲石堂寂本
十八景
寒玉幽溪傍路邊雲根繞出夕陽前聳名不汲旅人手百
世尚傳一首篇　弘法大師

玉川　萩園家集

櫻はむ
衣手の
ちぐさより
ながれて
玉川の
水

紅雪の
梢や恵
まれ山
寺淵

東曲高野詣

淵湖陳の碑をあやまり玉川の毒あるむ風のまみぢ系　栗三世

姑射山の新らしき川を俗ふ　寺淵

玉川よりの帰路の花やなりまさ　蕪村

まれにそれ遠者をとゝを生ぬるこゝれ　來船

○凡彫地蔵　大師凡を彫て尊像なり

○行基菩薩碑　左にあり　拾栗山人

年ふるまゝに横ゝとあゝで居るうぎやうぎ井のかゝさ　碑

○佛供杉　明上を敬勢佛供と結と号く

惺高文集

昂峰絶頂一龍雲高閣霊蹤隔俗氛百圍老杉僧臘老五千貝葉梵文紛雙擣流潔小魚楽三宝更闌異鳥聞慈氏龍華開幾歳那伽太定約寄劣

○愛宕權現社あり

○數取地藏尊　同上　俗待ち御廟の前の葉に數を識しるし功德を積しるし此石像旧破まゝ四斤となる地中に埋没せを延宝年間大坂の塗師義う

○塊亭碑 右あり碑銘あり五畿内風圭の銘あり

○多田満仲公碑 同上 此側ふ南龍院殿と南龍院殿尊と御遺命あつて其碑と満仲とあつて建てあつて且その碑の大さも分よ

○腰懸石 右あり大師腰をかけさせ給ふとなむ

○蛇柳 同上 大蛇怨他所ふつつと跡より柳生ぜり因て此名あり一説に遠く是と大蛇あつて妖と次時ふ大師持兄しあつて

夫木抄 正嘉二年毎日一首中

咲花は錦ぬかく立山柳此糸をたてめたるかな 民部卿知家

○護摩石 右あり大師の護摩をつとめ給ひし石なり 朱冠

○世南碑 背面に貫名氏乃銘文あり

とつ昔吳夢と家つくつて所在と知る
字出して是と合し尊像四つ寝さらん
塊亭碑 右あり碑銘あり五畿内風圭の銘あり

夢とかなる香の子をりや九百坊 塊翁

夫木抄 正嘉二年毎日一首中

咲花は錦ぬかく立山柳此糸をたてめたるかな 民部卿知家

吹つるひ柳あるとも向ふ柳 朱冠

なるひ柳今ぞ花盛 世南

燔死群霊の碑

碑文

文政十二年己丑三月九日江戸神田郷佐久間街失火西北風烈火所延焼東限墨水西暨外隍南至芝口其間茅宅市廛華為焦土男女燔死凡四千有餘人其他避火溺水或逃亡無蹤者不可勝數也豈可不傷悼哀憫哉於是開法筵於當山追福作善以為燔死群霊往生仏利之資矣因勒小碑以標其事云

燔死群霊頓成菩提碑

○立合藤　右ハ弘法大師と明神
とを見のところとなり
○明智碑　同上世俗日向守光秀の墓と云ハ梵宇のゆゑなるを明くそれなを
あらなくむ是全光秀の碑なるあるべしれども不忠を滅ぼすべし
○江戸失火墓碑　右ハ弘法大師の筆なり絵文
○門脇宰相奮墳　同上いにしへ
○護摩爐　同上大師後厳を
○厳鳴明神祠　右ハ
○慈尊院明神祠　右ハ
○天野明神祠　同上
○中の橋　一の橋と中の橋と二ツ
迷撮一の橋ハ

拾樂をもとめてそこなふ橋七月

暉雄

○橋徳接　右ハ弘法相傳ハ　豈義雲登遍主し日　橋徳と豈義雲の樹下小
竹橋を通へ
竹橋ハ
五色の雲陰
中ハ八将神現
三時豈の者
○流汗地獄　同上無数の遍
地獄ハ
大悲代受苦なり

あ年月をくり返す汗泥垢のみまくあく

焦熱くかくる佛もいるものは成安寺とは世びん　易興

世をさとくくと汗みどろの垢ぬぐふ　車光

○藥井　同上御誕の井とて延喜帝の勅使少納言平惟茂朝臣技癒て恵度しく道中渡頭に湯治諸佛に祈願し其水を服せしに病忽治せりとて

○住吉祠　同上

○熱田祠　同

○八幡祠　同

○天照大神祠　同

○春日大明神祠　同各勅願の時代詳なしとて

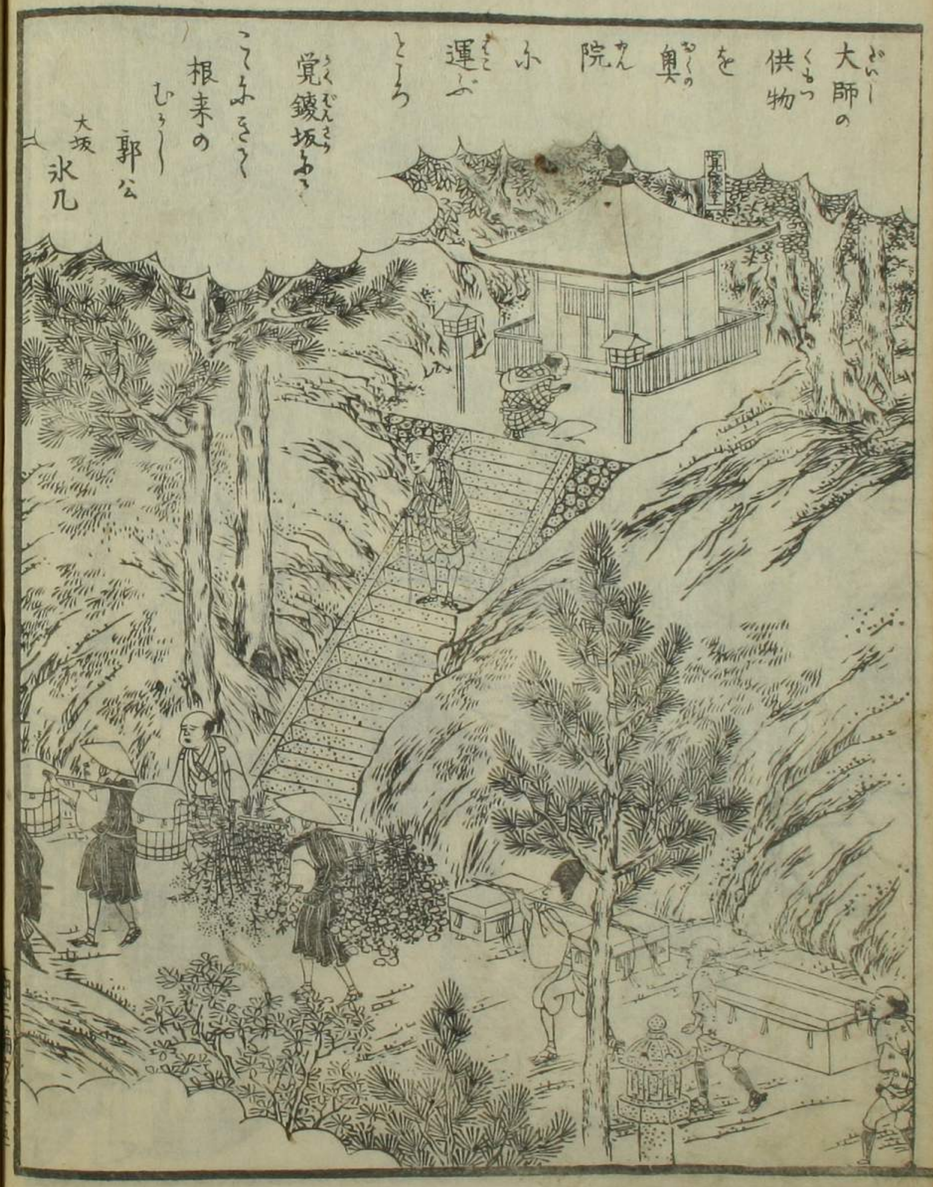
○逢坂　逢坂の

○右野藏王權現祠　右上あり

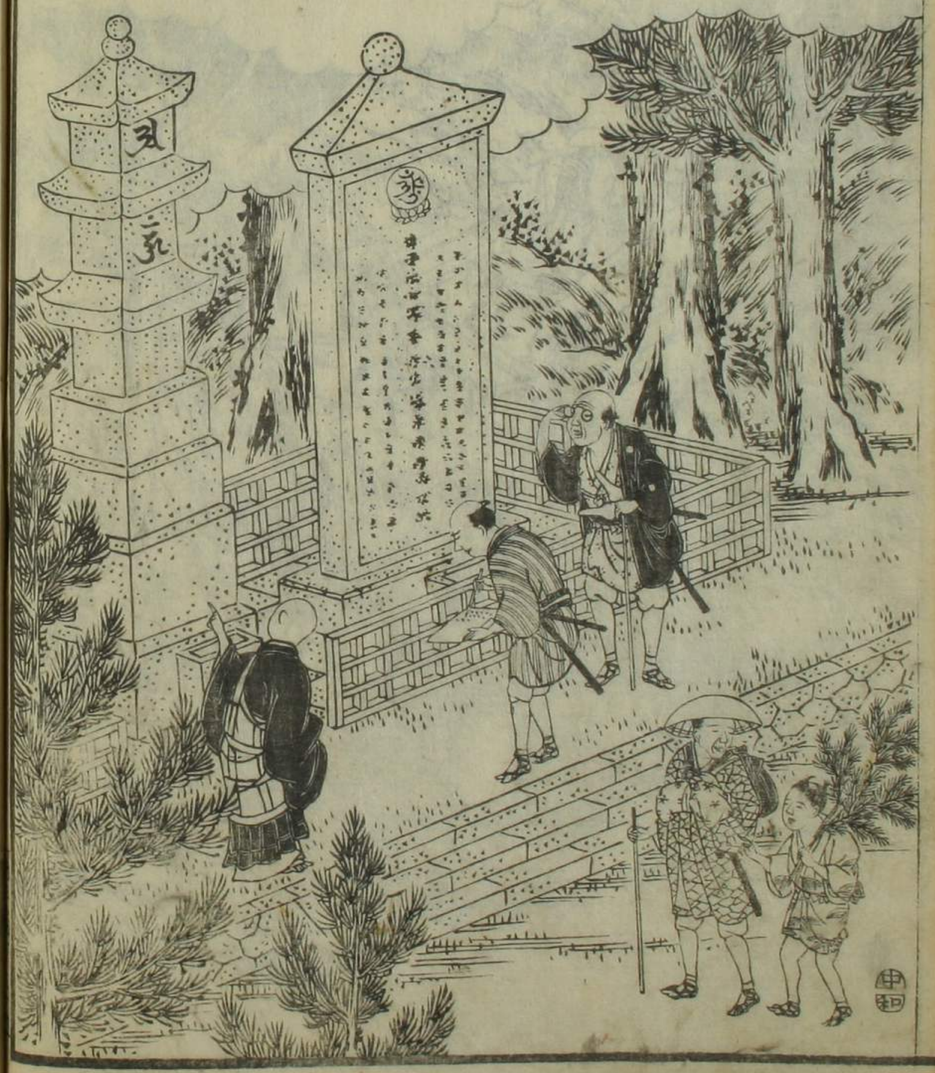
○鞭慶力石　同上弱法山せ

○貴鏤堂　同上扁額に密嚴堂とあり俗に運敞筆也享保年中智山豊山の流使生を再造ひとり

中尊與教大師


だいし
大師の
くもつ
供物
を
おくの
奥
かん
院
ふ
運ぶ
ところ
覚鑁坂あと
こうふさう
根来の
むうし
郭公
大坂
氷九

朝鮮役士亡靈の碑



○頰截地藏尊　同上ゟ一人の名ゟ代

○二番石塔　同上後醫庚の碑ゟ次ぐと云ふ高さ

○足刪地藏尊　同上一人、翠雲地藏と云ふ

○朝鮮役士之碑　左ゟ行り長七尺巾二尺二寸餘厚さ七寸ぐらい

慶長二年八月十五日於全羅道南原表大明國軍兵數千騎被討捕之內至當手前四百二十人伐果畢

同十月朔日於慶尚衛泗川表大明人八万餘兵擊亡畢

為高麗國在陣之間敵味方鬪死軍兵皆令入佛道也

右於度々戰場味方士卒當弓箭刀伏被討者三千餘人海陸之間横死病死之輩具難記矣　薩州嶋津兵庫頭藤原朝臣義弘建之

慶長第四己亥六月上澣　同子息　忠恆

紀新塞之捷　中井積善

慶長三年嶋津氏之守泗川也築海畔徙據之以為根本号曰新塞北築望津以扼晉江與新塞相距四十里又置永春昆陽等諸寨積穀東陽明董一元引軍抵晉州隔江而陣相持月餘明郭國安者降在望津與明將茅國器約為內應九月廿日國器勒兵渡江我兵臨岸防之寨中火起炎焰漲天衆驚而潰國器遂陷望津一元分兵攻永春昆陽縱火燒之我兵皆奔泗川一元進圍泗川二十八日

守、將血戰突圍奔新寨一元又焚東陽倉火不熸者兩日
夜自虜之攻望津新寨將士屢請赴援義弘不聽曰敵兵
衆而氣銳難與爭不若固壘以逸待勞一元益進攻新寨
將士皆奮欲邀戰義弘嚴令不許新寨一面臨海一面逼
陸引海爲濠舸艦千數浪寨下一元素憚薩師疑其有謀
退次泗川冬十月朔一元合兵二十萬復攻新寨自卯至
巳其將彭信古用大煩擊寨門碎樓堞數處步兵逼濠拔
柵爭登義弘隨機防禦殺傷過當鬨呼聲震地會虜煩跋
炸破火藥齊燃黑煙蔽空我兵乘勢登門衝突嶋津忠恒
鼓策先之信古兵三千殲焉餘衆披靡我兵尾而馳焉明
遊軍茅國器葉邦榮率兵一萬擣虛傅城義弘逆料之團
兵五千以待至則齊出奮擊虜卻走其後軍將藍芳威望
之先潰明軍大敗績我師追亡逐
北至望津而返斬首三萬餘級

京雲山て金津義弘の碑をたてる

藤原千廣

石碑の貴重へいらしの代のものとも杉乃をもて
杭瀬乃貢絶ふ
中つ国乃大国かゝ貴重
多年へ古を碑ふ語るもの
為多兎かゝ貴重へ

○天の川辯才天祠 駿

○熊野權現祠 日上

○閑院宮御宝塔 有

○一番石塔 日上

此五輪を崇源院殿の御石碑にて駿河亞槐御母公御追
福の爲ふ建させる所なり高さ三丈跌石二間四方ゑ亘
る石の玉垣を繞らし山上僣兆の碑碣ふ魁るとりて
俗ふ番石塔とゝ怪しさ大石を此危峰の巔ふしを
登し事推ゝ驚ゝ
ゆゝしきゝ尋常の制ふあらゝゝ
○芭蕉墓 日上

父母のおもかげ
雛子のあり

芭蕉翁

○石清水日上人碑

[illegible]

雪中菴象太

○清水観音 右に

[illegible]

○雙輪塔 左ハ金泥ト造る無垢浄光陀羅尼経の所説なり

○繼信忠信碑 各一基 左ハ

○法然上人碑 左ハ碑面の梵文並に源空の二字ハ上人自書し給ふ上人登山の[illegible]

奥の院[illegible]香木の念珠[illegible]持し給ふ

○盥漱盤 左ハ金泥と以て造る 浪花井川某の建立なり

○俵藤太碑 同上

○聲明地蔵尊 同上

○六孫王経基碑 同上 十八景 古今相逐伴深禪碑碣縱横草苔連家姓功名何所與山路傍碑碣

雲石堂寂本

風山月又雲烟

放鵬子

○浅野内匠頭碑 同上 大石内蔵介の

○織田信長公碑 左ハ

○太閤秀吉公碑 同上 豊臣家の碑

○本阿弥七基石塔 同上 [illegible]一閑 [illegible]鵜屋士の碑あり弘治元乙卯十月廿九日卒 [illegible]中ハ一閑 [illegible]の孫 今井宗薫當山一心院谷福生院ハ寄居し建火水地の漢字と鐫る塔海ハ空風

○木食所 同上 姑射山の

雨雪ふるあるまろ枝の葉うゝ菴と遊び四時あらくいろゝ

半なる木食の隠由ハ大和国三輪里平等寺の住職長弘

大徳當山に入て寂行を一心院谷の蓮定院にすまゝ

墓院より行づる道路つゝ遥なるゞ〳〵へよ寺家の交ゝと志川
んなみまでゞ只御廟のあるうちゝさ寂莫の地ふ〳〵けまゝ
ひ堂を堂ゝ深くりひけまゝ〳〵のちゝゝ穀味を断ちるゝ〳〵け
までゞうゝ人未食長ゝゝゝむ〳〵ひゝるむ〳〵いよのゝる菴を東林
院ゝゝ〳〵躰蓮坊も出ゝ乃爰よ往を快法上人ゝ絶ゝず木

食の行をなす者ゝゝゝゝゝゝゝゝや

狂歌大平楽

未食を人をなしゝゝゝゝ

〇姑射山 未食所の後あり此山ゝゝゝゝゝゝゝゝ

続千載

ふる雪の谷にとぢこめられぬとて　崇徳院御製

同

[illegible]　覚性法親王

続拾遺

[illegible]　中務卿宗尊親王

同

[illegible]　入道二品親王性助

出観集

山[illegible]　覚性法親王

○静蓮法師庵室跡　地詳

続千載

誰もこれ[illegible]　権大納言実国

○求聞持堂　同上　本尊虚空蔵菩薩　大治年中宗性上人の創する所なり山[illegible]修

一説[illegible]上人

○断食所　同上古の煙童堂の北の西の方にあり[illegible]全得[illegible]

後有志の[illegible]断食を行ずるもの穀味を断ちて仏説を者とすること七日

三蔵[illegible]

○参籠所　同上上古の御室御庵室の遥かに[illegible]祖師廟前の[illegible]

法並御膳所柔湯は長日不退の行義仏供所の恒常なるを再興[illegible]

太平記光厳法皇醍醐寺の條

奥の院に御[illegible]あるて大師の入定の窟とひしりせしまへ[illegible]

同とふくまて瑜伽上乗の理とあらはし山花[illegible]と繞く赤肉中[illegible]

の相を絵と彩仏の化縁を色めまとも[illegible]時の説今耳よりあるかと

[illegible]三日まで奥院に[illegible]夜あるて[illegible]

○水手向所　同上備国[illegible]の[illegible]人[illegible]

盤水[illegible]

続門葉

[illegible]

○明遍杉　同上　御廟檜の儀　則上人の[illegible]明遍上人[illegible]法眼覚親

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○御廟橋（御廟の西面に架せり俗に高野の橋と云ふ）

此橋板三十七枚ゝ蓋金剛界會の三十七尊ゝ表ゝ裏面ふ一ゝ其種子を書き故ふ犯罪障深ある人ゝ是を渡ゝ事をえず法性寺相國の再造ゝ所なりし延喜年中觀賢僧正大師を拜ゝ歸ゝ事ゝ大師この橋まで送ゝ事てのゝまゝ我今汝が本有の佛性をゝ只汝のゝふ所ゝ都ゝ參詣の道俗有縁の輩を送ゝ事常ふゝのゝ猶遠くも極樂淨土ゝ送ゝぞ又昔時豊臣秀吉公堂山しのひゝ事ゝ夜應其上人ゝ御供ゝこの橋を渡ゝ事ゝ直ゝ歸ゝ上人あまたを御廟ゝ申ゝ太閤のゝふやう罪障ふかき者ゝ此橋ゝ渡ゝ事ゝ後ずゝ我今天下を掌握ゝ人ゝ數多の人を害を明日列侯をあひ詣ゝ道ゝ此橋ゝ渡ゝ

紀三編六八四十二

いかゝの恥辱なるゝ此夜紙ゝ我万民のゝ為ゝ出徒を平ゝ佛意ゝ為ゝ猶東帯ゝ小田供ゝ渡侯を為ゝ罪なきゝ平ゝ

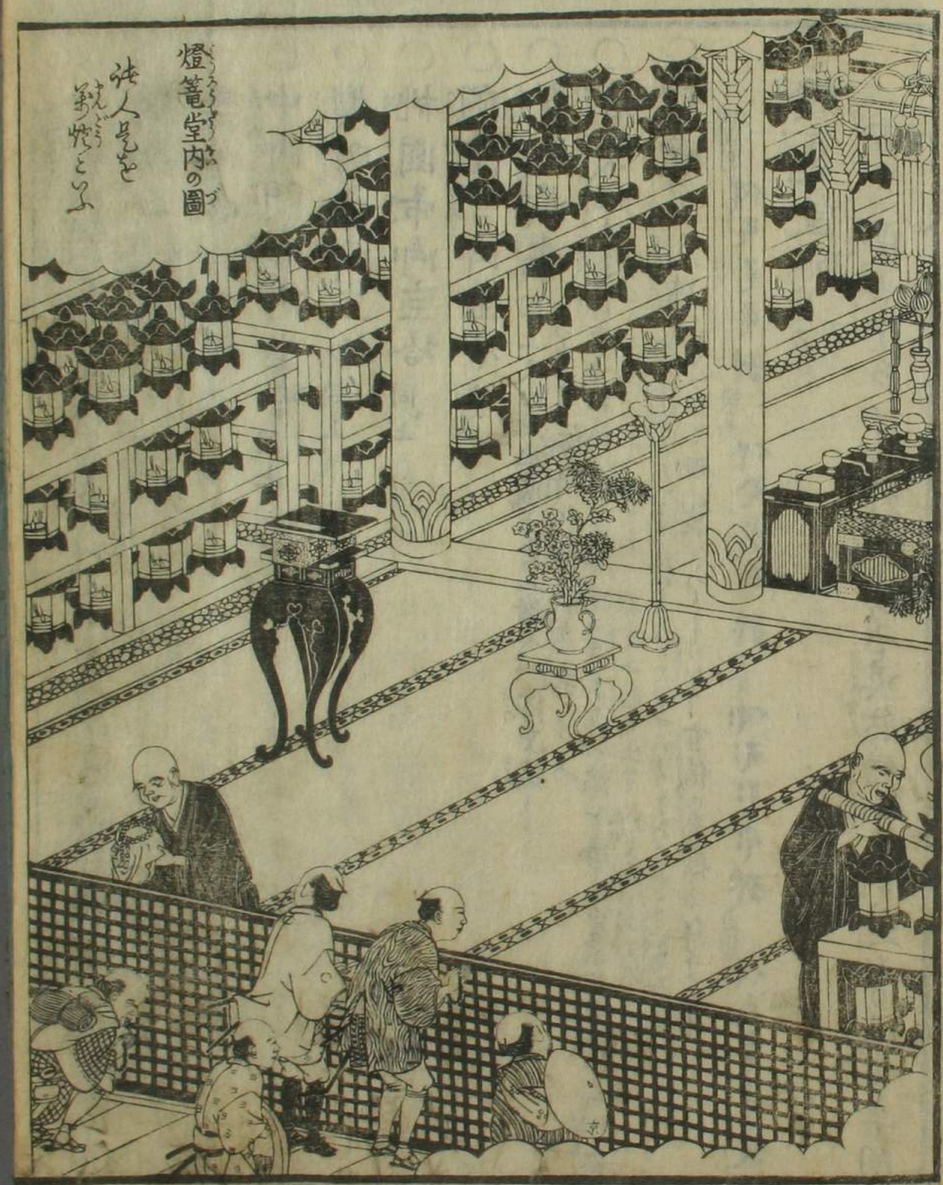
（熊野巡行紀行）御廟橋者一片板桟云々　昔者豊公之桀驁猶畏縮移時

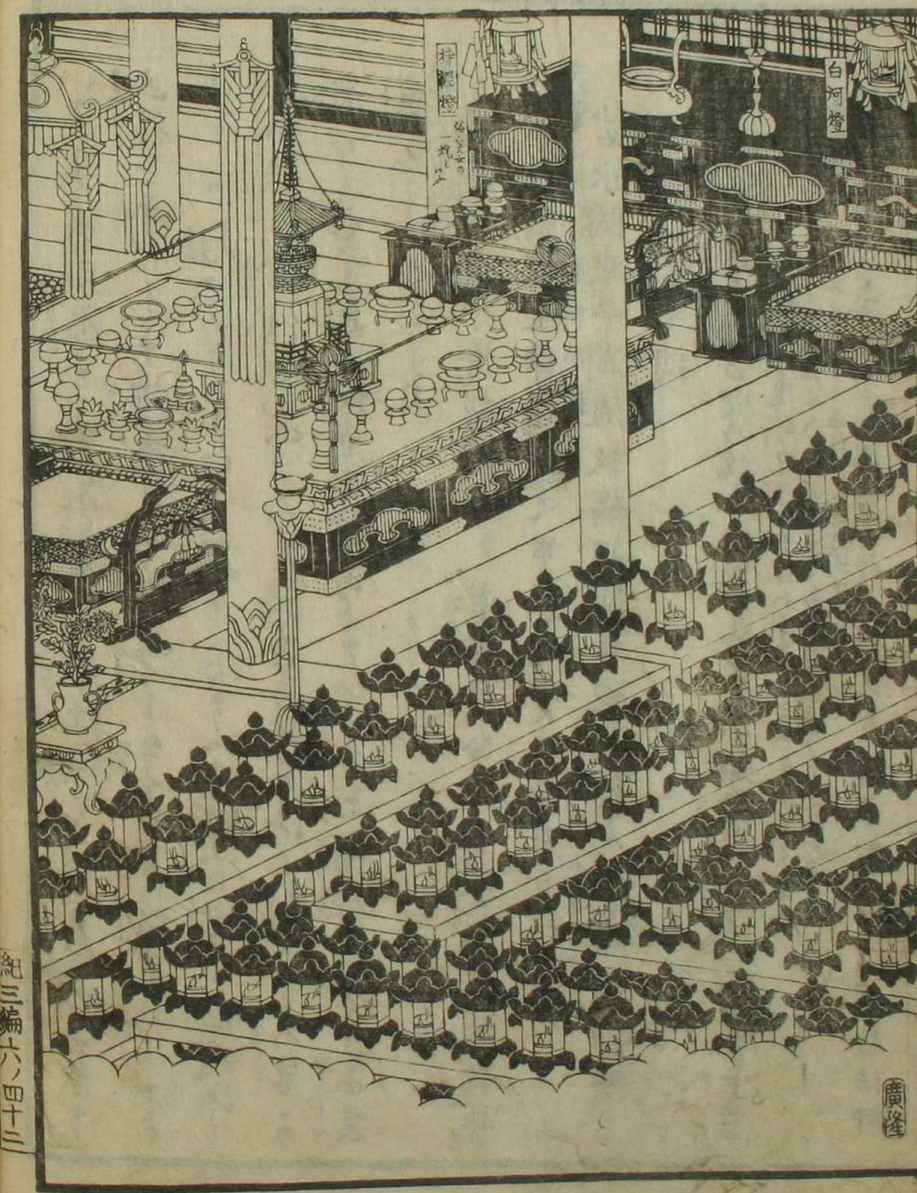
今白面書生舞踏過之世態之變人情可見（雲石堂宋林）

（十八景）岩水闌來一澗流（橋前幽橋）板橋相架境清幽行人踟躇過猶顧上下烟霞古木稠

（夫木抄御集）

ゝ橋のゝ実院れくゝのゝ月あゝゝ月ゝゝ
ゝゝこのゝゝゝ


燈篭堂内の圖
仙人見物


白河燈
廣隆

ちゝはゝやるんちゝえんちゝぞ　西住上人

○彌勒石　左側にあり　秘説あり　小堂の内ふかく　殘字のかちとまり

○霊元帝御宝塔　同上

○中御門帝御宝塔　同上

○櫻町帝御宝塔　同上

○桃園帝御宝塔　同上

○閑院宮御宝塔　同上

○笠地蔵尊　同上又ハ麻地蔵　渚人像と撫

○盲大師　病所を撫　失明の者あり像と持　忽愈　渚人像　相像　眼中に照を出す　祈願　三角石塔

○親鸞上人碑　碑前　何ゝ　同左　何ゝ　同背　何ゝ　碑裏　奇なり　有信の者往々拜すべし

○燈籠堂　御廟の西にあり

古ゝ禮堂ゝらひ又拜殿ゝゝ眞然僧正の創造なり　治安年間

禪定殿下道長公再造ゝ　鳥羽帝初ゝ常燈を献ぜたまひゝより燈籠堂の名起まりそゝ　性明の功徳莫大なり

ゝ大師御在世のとき深重の御願ゝゝ万燈會を設させゝゝ文世よ著ゝ御入定のゝち祈親上人燈を贈て更ゝ一燈を挑ぐゝ野明神ゝを悅ぐせうひ形現ゝゝ上人ふ和歌を志やゝゝ

我ゝゝべとときえゝゝゝ

かゝ上人修造の功ゝ因ゝ光明帝常照和尚の謚号を給今中央小一大燈を挑ぐ持経燈と又持経ゝ彼上人の号ふきゝ是とゝゝゝ遺列を輝ゝ古い萬燈會年ふ

ゝふゝゝゝふ皇祖の御徳を慕せゝひゝ　白河法皇御幸臨のときハ三萬燈を献ぐゝゝひゝ中ゝを御手自一燈を挑げゝゝ東の方持経燈ゝ對する一大燈是なり白河燈ゝゝ又

神君更ニ御力ヲ添ヘ給ヒ永ク此會の斷絶ヲまぬがれ
法式を定めゝまひしよう海内の信男信女日夜ニ壞貨を拋
ゝ終ニ永世不退轉の萬燈會とかなるべし

續千載　弘安元年百首哥奉ル

さゝなみのかぜさはのうへにかげとゞめ　入道二品親王性助

雪玉集

御願のあれ堂燈明を敷かゝげてもてなせの山れいのうとぞまつ
ゆゑ　ゆゑ　出あひ　乃載せ　大神の示ふ杖の後拾遺の出会

夫木抄　六帖題　法師

うち聲ゝあけむ空をとまつ人のゆゑ夜ふかきえのはの燈火　實隆

新葉集　釈教

うゑ世山あつまつ老くまつの月よ空とはとけれとり火　知家

松下集　曉更燈

かりの山淺ゆふけの宮ひゝくとゝろやのれ竹火　二品親王性勝

正廣

朧氣の富士ともも清貧で潔さ。千載の今も猶一燈の影高ゝ　其柏亭悟友

萬燈堂賦　和詩一絶

乃　燈　ゝ　ゝ　ゝ　五月のやゝもふゝ　塊亭凡悟

○持經上人碑　燈籠堂の

○御所芝　瑞離のお東の方ゝ天子臨幸のゝ世ゝ御廟を拜ゝ　堀河院納髮の碑　白川法皇の經碑　関白

師實公の經碑等

○應其上人五輪塔　瑞離のお西の方ゝ八角造の堂なり今ゝ所ゝ
夏ゝ日文禄第五仲秋二十三日建ゝ

○覺智碑　同上ゝの方ゝ

○骨堂　御廟の右壇下ゝ元和年中松下河内守元綱朝臣の造立なり

天下の緇素を遺骨と所ゝの靈區ニ置ゝ堂ニ

ひゝうむ爰ゝ古くゝ例ふゝ即大師の御記ゝ我山

ふ贈ゝ所の人者ゝ舍利ゝ我毎日三密の加持力ゝ

先安養宝刹ふ送ゝ當ゝ我山ゝ慈尊説法の

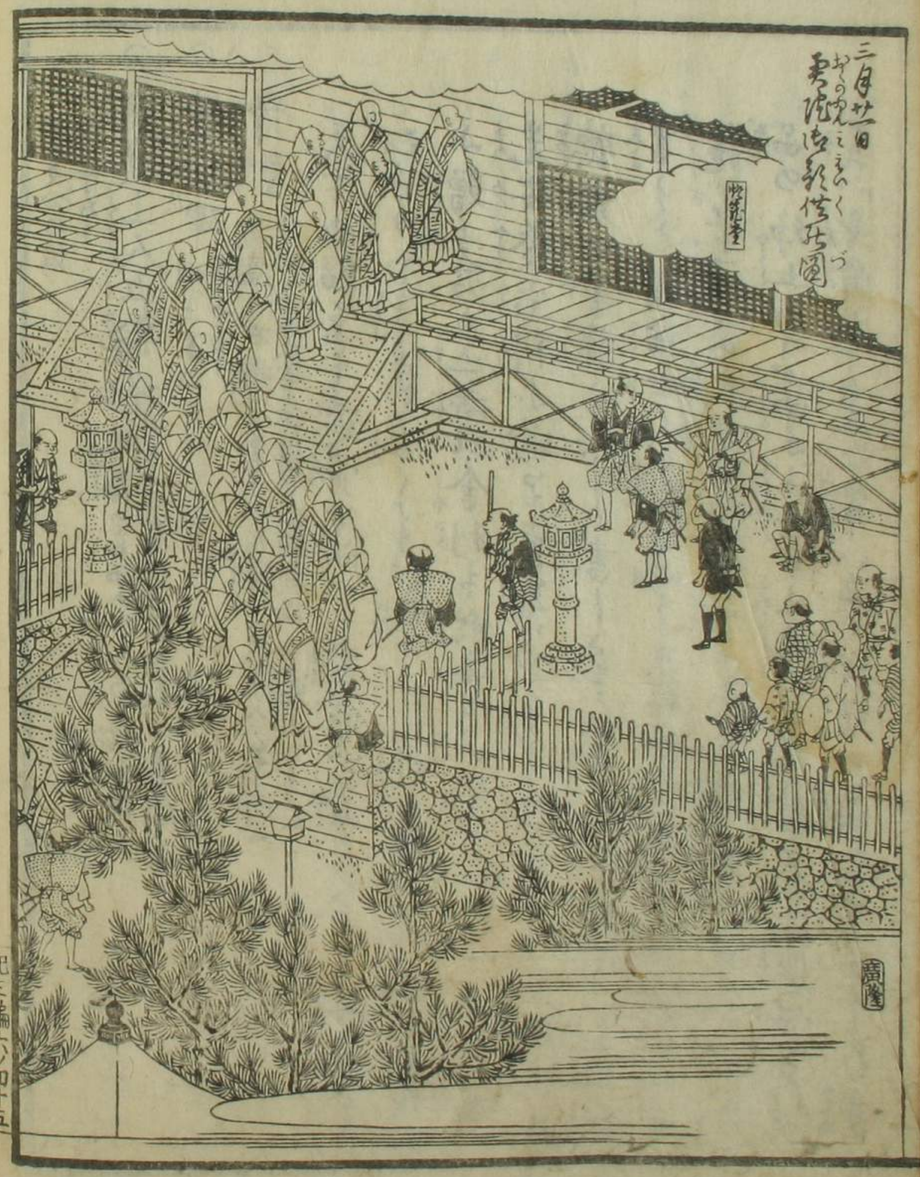
聽衆の菩薩ゝ書ゝ東福寺虎関が元亨釈

書ゝ國倍亡人の骨ゝ高野ゝ空之ゝ弘法大師の

龍花三會の大定ふ伴ゝ抑當山ゝ日本ふ九

品の淨土ゝ中ふ上品の上生ふゝ靈崛ゝ

ふ身骨ゝ有縁の益ふゝ華いそゝ寛


三月廿一日
おくの院こえのく
寿院西新井詣図

治年中ハ東寺の定額僧正勝實とゝいしが讃岐善通寺の
別當ハかゝる下向あるゝ時彼寺ハ於御筆の一紙を感
得せし文ハ

ト居於高野樹下　遊神於兜率雲上

不顧日々之影響　検知處々之遺跡

かく又ゝ高祖草創の名刹を望む人ハ巨益空しかるべ
中ゝを眼のいるゝ入定留身の地の尊さを知べしこれ世業く
亡者の為ハ帰依の院々へ日牌月牌を修ゝ長く法号を世
山内ゝ留め五十六億下生の曉まゝ晨夕の同向ハいつゝ功徳
莫大かるべし

大良院ゝ参せ給ひし山ゝ
をあまたまゝ給ひるゝ給ひる

新後撰　君も又祭あるやる神山をあつきをとゝもふ給ひ　貞空上人
門より御ゝを給ひ給ひ
をあまるつゝ紙よゝけゝ

雪玉集　飛のゝへ此ゝうまれの死を更く給ひらふ給ふ給ひ　實隆公

この世ゝあふぐらふ手都波安さてさせ給ひ給ひ給ひ給ひ
そとゝ世ゝ給ひ給ひ人ゝの世ゝを納ひる紙ゝり

同　ゝゝ五の手ハ愛はしひとすゝらふゆみらと給ひ給ひ給ひ給ひ給ひ　同

ゝゝゝゝの手ゝゝゝゝゝ給ひ給ひ給ひ給ひ

○一切經蔵 [illegible]艮方あり

○毋生高野両大明神 御廟の傍にあり天暦七年 雅真大德の開造なり

○霊烏 往昔より御廟の辺に一双の烏あり眼金色にして足の爪まゝ黒く天烏と云今御供所より日〻餌を與ふ此烏一山に禍あんとする時は食せずとなむ俗〻然也

烏は人道範阿闍梨祕記に云

奥院の烏は天照太神の使令し

○佛法僧鳥 一名三宝鳥又当山及び紀光比叡松の尾鳳来寺などの深山にあり雄は形鳩のごとく雌は小さく尾の端黒色嘴細く脚〻もゝ赤色なり

鳴聲ブツポウソウと聞なすなり

尼峯上其声似呼佛法僧とあり

[illegible]

近喜建久[illegible]

弁内侍日記

[illegible]

御集

つゞみをも法いるゝ[illegible]さとりとも仏法僧とぞ聞

後鳥羽院御製

仏法僧鳥も御法を知ひの夢ぞ[illegible]ふあり明の月

豊臣太閤

[illegible]

人有心声心雲水俱[illegible]

かゝるまことの宝山名をとゞめもう[illegible]世の夢覚めとや

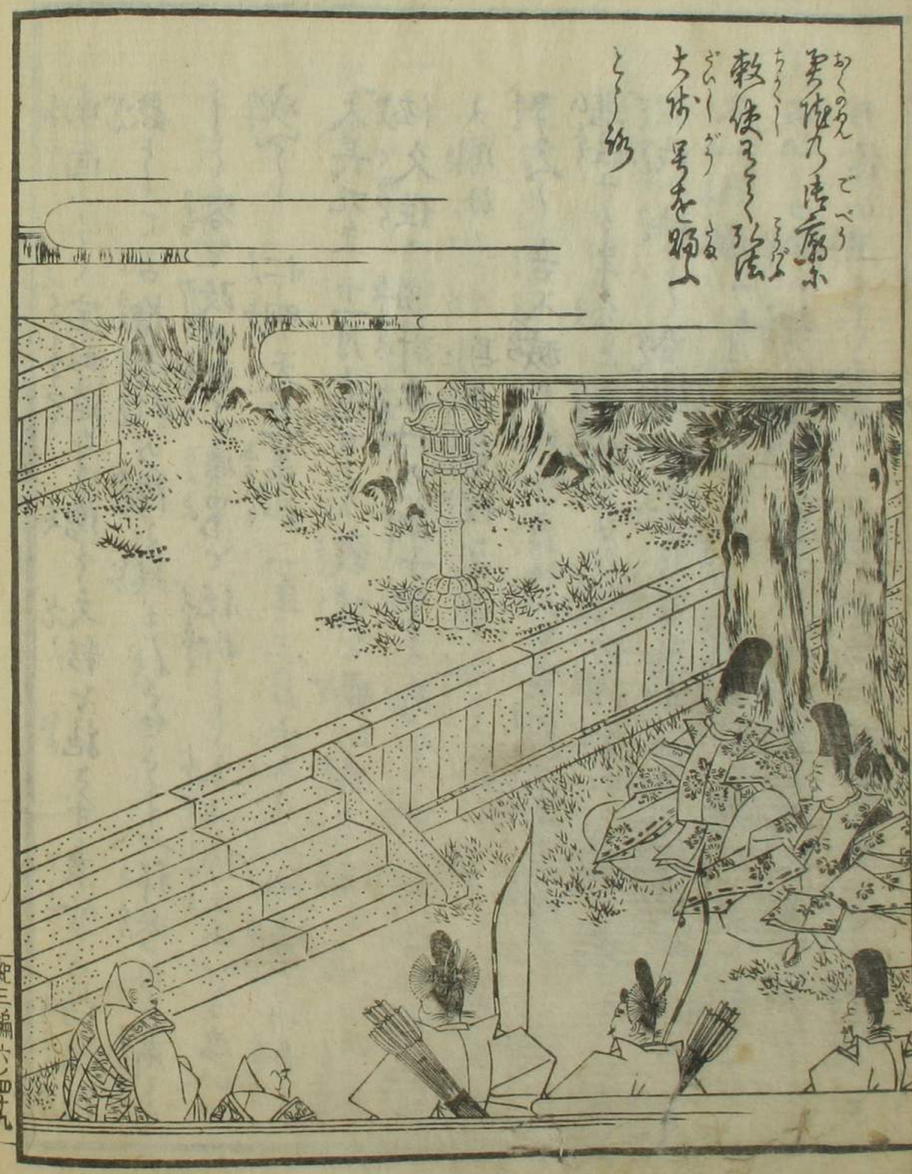
甕満

浮世をぞ夢とうつつの尾ふるもしやうの月　芳樹麻呂

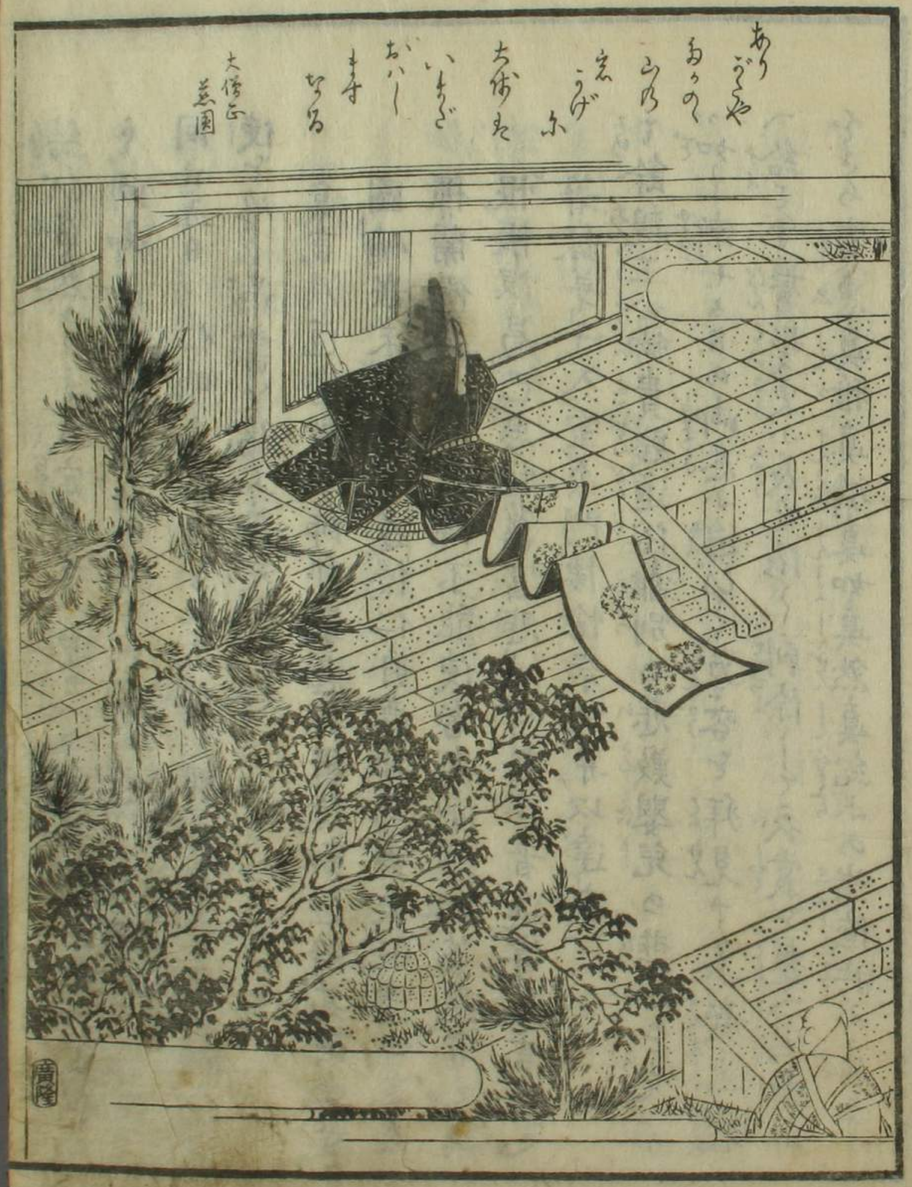
○萬年草　御殿の辺に生ひ出て苔のもとに根蔓をはびこり出て枝ふとく葉多く繁生す摘て煮て羹にすべし

一名水芝　細葉多く繁生す摘て煮て羹にすべし

人々俗ふ繼切の人れ安吾と名玉拍一名玉逢　千年柏　千年杉　千年松　千年草　千年宝　千年人　千年草　千年木　千年竹　千年石　千年山　千年水　千年月　千年日　千年光　千年風　千年雨　千年雪　千年霜　千年露　千年星　千年雲　千年霧　千年虹　千年雷　千年電　千年風雨　千年雪霜　千年露星　千年雲霧　千年虹雷　千年電風　千年雨雪　千年霜露　千年星雲　千年霧虹　千年雷電　千年風雨雪　千年霜露星　千年雲霧虹　千年雷電風　千年雨雪霜　千年露星雲　千年霧虹雷　千年電風雨　千年雪霜露　千年星雲霧　千年虹雷電　千年風雨雪霜　千年露星雲霧　千年虹雷電風　千年雨雪霜露　千年星雲霧虹　千年雷電風雨　千年雪霜露星　千年雲霧虹雷　千年電風雨雪　千年霜露星雲　千年霧虹雷電　千年風雨雪霜露　千年星雲霧虹雷　千年電風雨雪霜　千年露星雲霧虹　千年雷電風雨雪　千年霜露星雲霧　千年虹雷電風雨　千年雪霜露星雲　千年霧虹雷電風　千年雨雪霜露星　千年雲霧虹雷電　千年風雨雪霜露星　千年雲霧虹雷電風　千年雨雪霜露星雲　千年霧虹雷電風雨　千年雪霜露星雲霧　千年虹雷電風雨雪　千年霜露星雲霧虹　千年雷電風雨雪霜　千年露星雲霧虹雷　千年電風雨雪霜露　千年星



ごべう
ちくしん
ぶいしゅう



ありぐるや
あるのの
ふ
ふ
ちかも
いちご
おいし
ます
ちかる
大傳左
芝園

結び奄然として入定し給ふ兼日一旬の間四時の御行法あり
間御弟子達彌勒の宇号を唱へ閉目して言語絶えて入定す
自餘の生動のごとし
同廿五日　仁明帝勅使を以て賻を賜ふ　太上天皇崩院
使を以て吊書を賜ふ其文に曰
真言洪匿密教宗師邦家憑其護持動植荷其攝念豈
圖崦嵫未迫無常遽侵仁舟遽棹弱喪失皈嗚呼哀哉
禪關僻左亦問晩傳不能使者奔赴相助茶毘言之為
恨悵恨曷已思忖舊當悲涼可料今者遥寄單言吊之
著録弟子入室桑門悽愴奈何兼以達旨
餘親王公卿貴賤道俗離別の悲歎嬰兒の悲母を失つる
如し漸七々日の御忌ふ迫び尊容を拜見せずふ顔色衰
へ給ひず鬢髮更ふ長ど依て剃除して衣裳を整へ宝輿ふ
奉て實惠真雅真濟真如真然真紹ふの諸德共ふ肩を

駕して奥院ふ移し奉る供奉の御弟子一萬餘人その外
結縁の道俗數を忘れ摩尼峯の下姑射山ふ到して石室
を設け定身を安し奉る上ふ五輪の塔婆を置き佛舍
利を安じ又宝塔を建て種々の梵本陀羅尼を納む皆ども
真然大德の營なり　文德天皇天安元年贈大僧正
清和天皇貞觀六年法仰大和尚位を贈る
醍醐天皇の御宇　寛平法皇及ひ僧正觀賢の奏聞ふ
て弘法大師の謚号を賜ふ既して延喜廿一年十月廿日の夜
の御夢ふ告て曰
なるやまとをゞ奄こそわが苦のてらそ有明の月
帝大ふ感歎して即被色の法衣を賜ふ廟使ふ石山
の觀賢　勅使ふ少納言平惟助を以て志ふ共ふ同廿七日
二日令賫勅書於少納言惟助發詔曰琴絃已絶遺音更清蘭
遺千紀伊國金剛峯寺三々

叢雖凋。餘芳猶播。故贈大僧正法印大和尚位空海。消痕煩惱。抛欲驕貪。全三十七品之修行。九十六種之邪見。既而佛日西没。渡溟海而仰餘燼。法水東流。通陵谷而導清浪。受密語者多。満山林。習真趣者自成淵藪。況　太上法皇。既味其道。追憶其人。誠雖浮天之洪濤。何怠積石之源本。洎加崇飾之典。謚弘法大師。勅使詔書。讀竟。廟中ふ聲々。我昔遇薩埵親悉傳。印明。發無比誓願。陪邊地異域。肉身證三昧。待慈氏下生。晝夜愍萬民。任普賢悲情。と唱へさせ給へ。僧正　勅賜の御衣を捧げ〻廟内ふ入り尊容を拜〻奉るふ顔色変ぜず。儼然と〻生時の如し。剃頭髮を剃除し衣裳を寢い奉る。永く祕封を奥ふ石山の内供淳祐いまだ童形にて僧正ふ従い石室ふ入り〻て尊容を拜する事をえず。僧正祐の手を取り御膝を撫〻めさせ給ふ

其手生涯異香消せずといふ。口碑ふ昔内供所持の聖教ふ手の香今の御廟ふ　村上天皇の御宇　一百四十年ふ雅真大德の再造をなし所なり　相傳ふ嘉吉年間一休和尚登山のとき奥院〻〻弘法ふ虚空の定ふもいやまで虚空も定もうきものとちろせまくも穴いるくれと詠せまし〻〻ば和尚慈伺〻〻ふ廟中ふ色あり〻〻ふ

紀伊國名屬圖繪三編六之卷終

天保六年十月官輸上淮

天保九年九月海宇嶽行

画工　京師　法橋中和
　　同　小野廣隆
　　浪華　上田公長

筆耕　京師　池田東籬亭
　　浪華　鄧關牛

雕刻姓名
七之巻　平安　井上治兵衛
　　浪華　市田治郎兵衛
八之巻　仝
九之巻　平安　井上治兵衛
十之巻　仝
十一之巻　仝
十二之巻　仝

天保九年戊戌九月

製本書林　江戸　須原屋茂兵衛
　　浪華　河内屋太助
　　和歌山　帶屋伊兵衛

紀三編六ノ五十二